
サンマガブラザーズ、逃走中！！

藤龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サンマガブラザーズ、逃走中！！

【Nコード】

N0882S

【作者名】

藤龍

【あらすじ】

ある日突然、マスターとクレイジーと藤龍（作者）によって呼び出された49名の人たち。 どうかやら逃走中をやるらしい。
300分間逃げ切れれば1800万円という大金が手に入る。 は
たして逃げ切る事はできるのだから！？

作注：キャラ崩壊等があります。 そしてサンマガと言って
おきながら原作知らないものが半分以上です。

逃走者&エリア説明

逃走者についての詳細

サンデーキャラ

・江戸川コナン（名探偵コナン） 本名・工藤新一。 頭脳明晰で、かなりの計画性をもっている。 ミッションには積極的に参加する。

・毛利蘭（名探偵コナン） ユーリさんリクエスト。 工藤新一のGF。 空手で何回も優勝している。 体力がものすごく高く、反射神経もいい。 困っている人を見たら助けずにはいられないタイプ。

・鈴木園子（名探偵コナン） ユーリさんリクエスト。 毛利蘭の大親友。 体力はあまりない。 色男に騙されやすく、男がらみのミッションならどんなミッションだろうと参加する。

・早乙女乱馬（らんま1/2） 水にぬれると女、お湯なら男のニューハーフ(?)。 体力と反射神経ははずば抜けている。 ミッションには、あまり興味が無い。

・綾崎ハヤテ（ハヤテのごとく!） 親に1億5千6百8十万4千円の借金を押し付けられ、やくざに売り飛ばされそうになった借金執事。 サンデーキャラの中では足が一番速い。 しかしかなりの不幸体質。

・愛沢咲夜（ハヤテのごとく!） ユーリさんリクエスト。 関西弁でちよつとのボケでも容赦ないツツコミを入れる。 足が速く計算力も高い。 ミッションには積極的。

・ソニア・シャフルナース（ハヤテのごとく!） ユーリさんリクエスト。 通称シスター。 金銭欲が高く、体力がある。

ミッションには参加するが、少し臆病。

・美神令子（GS美神 極楽大作戦！） 何事にも対応でき、即座にコツを習得する天才GS。ゴーストスイーパー しかし金銭欲が高く、Sな性格。

・才賀勝 （からくりサーカス） 小学5年生のときに父親の死により、莫大な遺産を相続した少年。 逃走中にはお金よりも楽しむ事目当てで参加してららしい。

・勝改造（勝手に改造） 自分自身が改造されたと思い込んでいる高校2年生。 遠慮がなく、思ったことをためらうことなく口にするのでよく人の逆鱗に触れる。 しかし体温が38.5度以上になると頭脳明晰の天才になる。

・植木耕助（うえきの法則） ゴミを木に変える力を持つ能力者。 危機に陥った他人に対しては自分の危険を顧みず助ける。

寝ながらも逃走可能。

・白浜兼一（史上最強の弟子ケンイチ） 梁山泊の一番弟子で、「史上最強の弟子」になる予定の少年。 師匠に怒られるので、逃走成功を目指し、ミッションを積極的に行う。

・墨村良守（結界師） 考えるより前に行動する、行動派結界師。
コーヒー牛乳を飲むと全ステータスが上昇。

・明石薫（絶対可憐チルドレン） レベル7の念動能力者。サイコキ
闘争本能が強いが、能力はある条件を満たさない限り使えない。
普通時に念動力を使うと失格になる。

・茂野吾郎（MAJOR） 総合的に運動能力が高い野球選手。
ただ、それ以外のことでは集中力が無く、考える事ができない。
しかし、逃走中ではその高い運動能力を發揮するかも。

・高嶺清麿（金色のガッシュ！！） 中学2年生の1学期の時点で既にマサチューセッツ工科大学の首席卒業生の論文を難なく読みなす事が出来る天才児。 アンサートーカーの能力は使うことができない。

計16名

マガジンキャラ

・金田一はじめ（金田一少年の事件簿） 普段はグータラだが事件になると一変する高校生探偵。 探偵同士ということからコナンとはライバル関係にある。

・明日真映児（サイコメトラーEII） サイコメトリー能力をもつ高校生。 だが、逃走中ではそれを使うことができない。

足の速さは微妙。

・浦島景太郎（ラブひな） どんな攻撃や事故、災害などを受けてもなぜか死なない不死身の身体の持ち主。 その不死身さでは逃走者の中でハヤテと1、2を争う。

・美堂蛮（Get Backers -奪還屋-） 魔女の血を引くクォーター。 握力は200kg以上の怪力の割にはミッションがらみでなければ喧嘩でやくざにも負ける。 足はたいして速くない。

・南樹（エア・ギア） 天性の運動センスの持ち主で、エア・トレックチーム「小烏丸」のリーダー。 だが、エア・トレックを装着する事は不可。 装着した時点で失格。

・ネギ・スプリングフィールド（魔法先生ネギま！） かなりの努力家で心優しい魔法使い。 若干10歳。 しかし魔法を逃走中で使うことは不可能。

・糸色望（さよなら絶望先生） 超ネガティブな高校教師。 通称絶望先生。 服装は走るのがメインなのに小紋柄の着物に袴穿きという格好。 ミッションにはかなり消極的。

・ナツ・ドラグニル（FAIRY TALE） 火竜の異名を持つ。^{サリマンター} 喧嘩っ早くあまり物事を深く考えない楽観的な性格。

炎を食べる事ができるが、今回は食べた場合強制失格となる。

・高木藤丸（B L O O D Y M O N D A Y） 普段は不真面目な学生だが、裏では天才ハッカー。 通称ファルコン。 常にパソコンを持ち歩いているが、逃走中では使用不可との事で、持ち歩かない。

・四月一日君尋（x x x h o l i c） 唯一のヤンマガキャラ。妖や幽霊を見ることが出来る。 日々妖に追いかけられ、その結果マガジンキャラで一番足が速くなった。

計10名

スマブラキャラ

・マリオ 赤い帽子とオーバーオールがトレードマークの配管工。すべてにおいて平均的なステータスを持つ。 ミッションには積極的。

・ルイーダ 緑の帽子とオーバーオールがトレードマーク。マリオの弟。 絶望先生の次にネガティブなヤツ。 かなりズル賢いことも。

・カービィ 食欲にかける思いなら誰にも負けない、ピンクの悪魔。 スピードはあまりないが、体は軽く弾みやすい。

・メタナイト カービィのライバル的存在だが、今回は友好的。 剣を振る速さは音速を超えるが、今回は全然役に立たない。 足は比較的速い。

・ピカチュウ みんなのアイドル(?)。 でんこうせっかでする事が可能だが、使用は3回まで。 ネズミのようにちょこまかと動く。

・ルカリオ 波動の勇者。 近くのハンターの位置を性格に知

る事ができる唯一の人間(?)。だが、集中力が必要で、立ち止まっていないと知る事ができない。

・プリン 。臆病で自分が逃げる為なら他人を巻き込んでもいいという性格。隠れてることが多い。

・フォックス とても高い瞬発力と足腰の強靭さを持つ狐。

射撃の腕もなかなか。だが、興味のあるミッションにしか参加しない。

・マルス アリティア王国の王子。走るのがとても速く、体力もそこそこある。 気配を感じ取る事ができるが、それがハンターなのか逃走者なのか一般人なのかは見るまでわからない。

・アイク 肉のためならなんでもする、グレイル傭兵団の団長。

両手剣を片手で持つほどの怪力の持ち主。だが、足はあまり速くない。

・リンク 剣も弓もブーメランも乗馬もなんでもできる超人。緑の服と尖がり帽子が有名。走力もなかなかのもの。

・サムス 最初はよろいを装着している状態でスタートし、その後好きな時に脱ぐ事が出来る。しかし、また装着するにはばらばらになったよろいをまた集めなければならぬ。

・ソニック 全逃走者のなかで一番足の速い音速のハリネズミ。

セリフに英語が混ざる事がある。 ミッションにも積極的に参加する。

・スネーク 見た目はおっさんだが、戦場での生き方を恐らく一番知っているだろうという人。 計画性が強く、ハンターから逃げるのもお手の物。

計13名

ゲストキャラ

・クラウド クロウドさん本人リクエスト。 腹黒でDS。

足の速さはソニックの次に速い。 コーヒー牛乳を飲むとスタミナが全快し、スーパーハイテンションになる。 そのため良守とよく争奪戦を行う。

・黄キノピオ kさんリクエスト。 関西弁で、たこ焼きのためならなんでもする。 足は遅いがなぜか運がいい。 ちよつとバカ。

・ワグナー ワグナーさん本人リクエスト。 マイペースで行き当たりばつたりのところがある。 全てにおいて平均的なステータスをもつ。

・龍斗 龍斗さん本人リクエスト。 様々な面で攻撃的。 ミッションには勇んで参加する。 足は普通よりちよつと速い。

・蒼 龍斗さんリクエスト。 足は速いがドジで天然なところがある。 ミッションには割りと積極的。 ちなみに女。

・玲羅 奏音さんリクエスト。 いつも眠そうにしている、天然。 運動能力は抜群で、頭もいいが、どこか抜けている。 正義感が強いのでやる時はやる人。

・秋葉 奏音さんリクエスト。 思い立ったら即行動する行動派タイプ。 運動能力は低めだが、かなりの強運。 反射神経はズバ抜けている。

・ikkki ikkiさん本人リクエスト。 マイペースなところがあるが、ミッションには積極的。 足は速いほうで、運動派。

オリジナルキャラ

・神谷聖夜ノエル（なぜか選ばれた俺の異世界冒険記） 神から受け継いだチート能力を持っているが、逃走中では全て使えない。足は比較的早く、体力もそこそこ。 ミッションにも積極的。

・天野原サトル（マジック・ウォリアーズ） 逃走者の中で一番陰が薄い。 魔法が使えるがほとんど無意味。 最近はほとんど忘れ去られていて、時にはハンターにも存在を認知されない。

合計49名

この49名の逃走者が「サンマガランド」でハンターから逃げ回る事になる。

サンマガランド

サンマガランド内は大きく次の3エリアに分かれる。

- ・サンデーエリア
- ・マガジンエリア
- ・スマブラエリア

そしてこの3つのエリアはそれぞれ「東」「西」「南」「北」に分かれている（東サンデーなど）。

逃走者はみな、それぞれが持っている特殊能力を使うことができない

くなる。

霊が見えるなど、逃走に影響を及ぼさない能力はそのままだ。

逃走時間は300分。

1秒につき200円増加される。

300分間逃げ切れれば1800万円が手に入る。

自首をすることもでき、サンデー、マガジン、スマブラエリアに1つずつある交番に行けば自首できる。

自首をすれば、それまでの賞金を手に入れることができる。
尚、自首するには専用のコインが一枚必要。

逃走者以外

・ハンター 逃走中でお馴染みのあの人たち。 ソニックと同等のスピードを持つ。 さらに聴覚もよく、些細な音でも見逃さない。

・マスター スマッシュブラザーズの神たる存在。 逃走中では主に人間としてミッションなどに登場する。

・クレイジー マスターの双子の弟。 破壊神の異名を持つ。 マスターと同じように人間としてミッションなどに登場する。

・藤龍（作者） 今作の作者。 逃走中ではミッションキャラとして登場したり、牢獄DEトークに参加したりする。

・その他参加できなかったキャラたち いろいろなシリーズから参加できなかったキャラもいる。 そんなキャラたちはミッションで出てきたり、一般人として出てきたりする。

では、逃走者の諸君。

健闘を祈る。

逃走者&エリア説明（後書き）

本文（話）の2倍近く文字数を使った……。。

次回、オープニングゲームです！

始まりは突然に……（前書き）

本当に駄文です。

それでもいいZE！

と言っ方はご覧下さい。

始まりは突然に……

マスター「突然だが、彼らに逃走中をさせようと思う」

クレイジー「本当に突然だな」

藤龍「じゃ、この転送装置を使いますか。……ポチツとな」

クレイジー「まて！　まずは理由を聞けよ！！」

もう、遅い。

~~~~~数分後~~~~~

転送装置によって計49名の人間がサンマガランド中心にある中央広場へ呼び出された。

マリオ「……なんでここに呼ぶんだよ」

コナン「推理中だったのに！」

樹「バトル中だったんだぞ！」

ネギ・絶望先生「こつちなんて授業中ですよ！！」

ナツ・蛮「依頼聞いてたんだぞ！　こつちは！！」

みなさんお怒りのご様子。

クロウド「俺のコーヒー牛乳をどうしてくれる！！」

黄キノピオ「わいが一日中並んで買った限定たこ焼きはどうなるん

！！」

ikki「こつちだって試合中だったぞ！！　まあ、負けそうだ

つたけど」

ワグナー「お前らなあ……」

藤龍「あの、皆さんが文句を言いたいのは分かりますが、こつちだって用が無ければ呼びませんよ」

呼ばれた全員「だったらさっさといいやがれ！！」

すみません、ホントすみません。

マスター「お前達にに来てもらった理由は、これから逃走中を始め  
るからだ」

ハヤテ「逃走中？ 逃走中ってあの鬼ごっこみたいなやつですか  
？」

マスター「そうだ」

スネーク「その前に、お前は誰だ」

マスター「？ 見て分らんか？ マスターハンドだ」

スマブラ「マスターハンド！！！！？」

ソニック「人間になれたのか！？」

クレイジー「おいおい、神をあなたどってもらっちゃ困るぜ」

スマブラ「まさかクレイジー！？」

クレイジー「ご名答」

藤龍「あの〜、このままじゃキリが無いと思うんだが……」

マスター「それもそうだな。ではみんな、このくじを引いてく  
れ」

そう言つてマスターは棒が何本も刺さっている箱を取り出した。

玲羅「これで…… どうするの？」

藤龍「オープニングゲームの鎖を引く順番を決めるんだ」

全員、おとなしくくじを引いた。

マスター「それでは、私たちは消えるから、健闘を祈る」

~~~~~

改造「…… 一番手は僕ですか」

絶望先生「がんばれよ〜」

改造「分かってます」

改造は鎖の前に立った。

ルイージ「で、何色を引くんだ？」

改造「じゃ、適当に黒を引きますか」

目の前には3体のハンターが入っているハンターボックス。

セーフか、ハンターか……

チャリンッ！

……セーフだ。

改造「よかったあ……。じゃ、僕は先に逃げてますんでクリアした者は離れたところからスタートできる。」

秋葉「次はあたしね」

2番目に引くのは奏音さんリクエストの秋葉。

マリオ「あれ、2番ってルイージじゃないの？」

ルイージ「残念ながらそこまで2番手じゃないよ。僕は2番目さ」

……やはり永遠の2番手。

秋葉「じゃあね……。ピンクにしようかな！」

セーフか、ハンターか……

チャリンッ！

……セーフだ。

秋葉「やった！　じゃ、お先に」

玲羅「頑張つてね」！

ハヤテ「次は僕ですか」

サンデーキャラの中で一番足の速い不幸な借金執事。

四月一日（あの人、妖に取り付かれてるよ……）

良守（それもかなりやばいのに……）

ハヤテ「じゃあ僕は……　青で行きます！」

セーフか、ハンターか……

チャリンッ！

ガコンッ!!!!

ハンター放出だ!!

ルイージ以外「うおおおおおおお!!!!」
ゲームスタートだ。

放出されたハンターが真つ先に目に捕らえたのは……

ルイージ「ちよっ、みんな待ってよ!!」
ルイージだ。

ルイージは懸命にダッシュしようとするが、所詮ルイージだ。
ハンターとの差は縮まるばかりだ
ルイージ「ぬわーーーーー!!!!!!」
ポンッ

ルイージ確保、残り48人。

ピロピロピンッ

マリオ「確保情報か」
コナン「中央広場にてルイージ確保。いきなりか……」

残り299分

始まりは突然に……（後書き）

牢獄DEトーク

ルイージ「くそっ……」

ピーチ「ご苦労様」

ルイージ「なんだよ！ 僕に恨みでもあるのかい!？」

藤龍「いや、無い。スマブラXのランキングにも君は載ってるし」

ルイージ「じゃあなんで!？」

藤龍「いや、ここはルイージが当たりを引かなきゃいけないような気がしてね」

ルイージ「……くそっ!？」

藤龍「ちなみに、君は俺のスマブラデータでは一番撃墜された回数が多いキャラだったよ」

ルイージ「……」

ミッション1 始動

薫「ここまでくれば、大丈夫でしょ……」

令子「そうね。でも、油断は禁物よ」

この2人は今、南サンデーエリアにいる。

数少ない女性参加者の2人。原作者つながりでどこか通じ合うところがあるらしい。

薫「それにしても立派な屋敷ねえ……」

薫は目の前にある巨大な屋敷に見とれていた。

映児「よかつたぜ、あの緑を引いてくれて」

サイコメトラーの映児。彼は今、西スマブラエリアにいる。

映児「次が俺だったし、あん時緑引こつかな〜とか思ってたからな……」

どうやら運がよかつたらしい。

園子「絶対生き残って、男漁りまくるわよ〜！」

男が目当てなお嬢様（時々名探偵）。

そこに忍び寄る一つの影……ハンターだ。

園子「だから絶対に自首はしない！」

ハンター「!!」

気づかれた。

園子「じゃ、まずはこっちに行ってみようかしら」

園子は気づいていない。

ポンッ

園子「え………？」

園子確保。残り47人。

園子「モーーーーっ！！　　なんでっ!?!」

ピロピロピンッ

蘭「え!?!　　東サンデーエリアで園子が確保!?!」

アイク「結構近いじゃねえか……。　　用心しねえとな」

マリオ「よかつた、ルイージの次に捕まらなくて」

どうやら、弟に恥ずかしい格好はみせられないらしい。

一方その頃……

近衛兵A「陛下!?!」

国王「どうした、ロイよ」

ロイ（近衛兵A）「先ほど陛下にこのような手紙が……」

国王「なんと書いてあるのだ？」

ロイ「そ、それが……」

数分後……

国王「な、なんだと!?!　　いかん、今すぐに民を非難させるのだ

!?!」

ロイ「そ、それが非難させた場合すぐに使うと書いてありまして……

……」

国王「な、なんと……」

ピリリリリッ

マルス「あれ、なんだか今までとは違うな……」

はじめ「もしかしてミッションか……？」

その通り、ミッションだ。

マリオ「え〜と、ミッション1。サンデー、マガジン、スマブラエリアにそれぞれ一つずつ亜空間爆弾が設置された」

清磨「のこり230分になると爆発し、爆発したエリアは使用不可となる。 は!？」

絶望先生「阻止するには爆発する前にそれぞれにコイン3枚を投下しなければならぬ」

スネーク「急ぎたまえ。 ……参加すると自首は出来なくなるな」
ikkii「なんで初っ端からこんなハードなミッションなんだよ！」

ミッション1

サンデー、マガジン、スマブラエリアに亜空間爆弾が一つずつ設置された。

残り230分になると爆発し、爆発したエリアは使用不可になる。

阻止するにはそれぞれにコイン3枚を投下しなければならない。

そのため、自首はできなくなる。

爆発した場合、そのエリアにいた逃走者は強制的に失格となる。

プリン「え〜、それってこのままだと失格になっちゃうって事でしょ? 行くべきなんだろうけど、いい隠れ場所見つけたから行かない」

フォックス「俺は行くぜ。 このままだと全員強制失格だろ?」

行くも行かぬも本人次第。
下手に動き回ればハンターに見つかる可能性がある。

ソニア「め、目の前に爆弾があるのですが……　ハンターが……」
ハンターがいて思うように動けない。

四月一日「行くか……。　近くにハンターいるしそれから逃げる
為にも」

ハンターを遠ざけるために参加する霊体質者。

藤丸「……パソコンさえあればあんなハンター一瞬で消せるのに」
こちらも爆弾の近くにいるがハンターのせいで動けない。

藤丸「なんでパソコン没収したんだよ」
自力で逃げる。　それが逃走中だ。

カービィ「ミッションは行かない。　自首できなくなるもん」

自首する気満々のピンク玉。

そしてその近くにハンター……。

カービィ「とりあえずどつかに……ってハンター！」

気づくや否やすぐに逃げた。

ハンター「……………」

ハンターは気づいていなかったらしい。

爆発まで残り30分。　ゲーム終了まで残り260分。　金額
は480000円。

はたして爆発を防ぐ事はできるのか……？

ミッション1 始動(後書き)

牢獄DEトーク

園子「うわーん……。 緑の次に捕まっちゃった」

ルイージ「ちっ、兄さんじゃないのかよ」

藤龍「なに期待してんだ」

ドンキーコング(以後DK)「まあ参加できるだけいいではないか。

おれなんて参加すらさせてもらえなかったからな」

ルイージ「それって、誰が決めてるの？」

藤龍「俺」

園子「……こうなったら逃げ切ったのが蘭だったら半分恵んでもら
って色男だったら一気にたかかってやる！」

藤龍「さり気なく(?)ひどいこと言うなあ」

ミッション1 その1

玲羅「どこにあるのよ爆弾〜！」

ミッションに参加しようとしている玲羅。

彼女は今、全エリアの一番東、東マガジンエリアにいる。

玲羅「みんなも見当たらないし、それよりここどこ〜」
どうやら現在地が分からないらしい。

樹「お、これだな爆弾」

一番に爆弾を見つけた樹。

樹「そんじゃ早速コインを」

チャリン

樹「これでいいのか？ 一応、他の連中に場所送っとくか」

ピリピリピツ

景太郎「あれ、またなんか違う着メロだな？」

咲夜「お、イッキのやつからのメールやないか〜！」

みんなへ

爆弾一つ発見！

場所は東スマブラエリア、植物園前だ。

あと二つコインが集まればOKだ！

南樹

乱馬「さすがイツキだな」

割と近くにいるニューハーフ。

乱馬「……なんか今、だれかにムカつくこと言われたような気がする」

ちなみにイツキとは樹のニックネームで決してゲスト出演のikk
iさんとは違います。

藤龍「……そういえばさ、マスター？」

マスター「なんだ」

藤龍「亜空間爆弾なんて使うミッションあったっけ？」

マスター「いや、ないはずだが」

藤龍「じゃあなんで初っ端から亜爆を使ったミッションが開始されてるの？」

マスター「……なに!？」

ソニア「よし、今です! サムスさん!」

サムス「分かってる!」

ソニアはあれからずっと待機し、そしてサムスと合流し亜爆に近づくチャンスをうかがっていた。

そして今、ハンターは亜爆から離れた。

ソニア「ええと、ここに入ればいいのですか?」

サムス「そうみたいね。 でも時間が無いから早く!」

チャリン、チャリン

ソニア「よし! じゃあ、ちょっと離れてからみんなに場所を教

えますか」

サムス「そうね。ここにしていると危険だし」
そう言つて二人はその場を離れた。

一方そのハンターは……

勝「く……どこから来たんだよこのハンター！」

人形遣いを追いかけていた。

勝「やっと爆弾を見つけたと思つたらいきなりでてきて！ ツイ
てないな……」

全力疾走で走るが、所詮は小五の足。 差は縮まるばかりだ。

勝「ちつくしよー！ー！ー！ー！！！」

ポンッ

勝確保。 残り46人。

勝「逃げ切れなかった……」

ピロピロピンッ

兼「うわっ、頼むから静かにしてくれよ……」

すぐそばにハンターがいる最強の弟子。

ハンターは気づいていないようだ。

ピカチュウ「え？ 北マガジンエリアで才賀勝確保!？」

カービィ「北マガジン……近いのか近くないのかわからない」

地図が読めない星の戦士。

ちなみに今全逃走者の中で一番近い。

ピリピリピッ

ナツ「連続かよ！」

吾郎「音からしてどうやらメッセージみたいだな」

みなさんへ

爆弾をもう一つ見つけました。

場所は北マガジンエリア、トンキーホンク前です。

残り一つでこの爆弾はクリアできます。

ソニア&サムス

ハヤテ「シスターとサムスさんですか、よくやりましたね！」

蛮「……トンキーホンクの前かよ！！ やばい！！」

蛮はすぐさまにトンキーホンクへ向かった。

ちなみに今彼がいるのは南スマブラエリアで、北マガジンエリアから一番遠い場所にある。

ハヤテ「……東スマブラのほうを止めるのが先決だと思うのですが……」

良守「お、あつたあつた」

良守は北マガジンエリアの亜爆にたどり着いた。

良守「じゃ、早速」

チャリン

ガコン！！

良守「……これでOKかな？」

ピルピルピルピルピルピー

耕助「長っ!!」

聖夜「誰かエスカリ ルクに殴られたのか？」

龍斗「お、クリア報告じゃねえか」

ソニア、サムス、良守の協力により、マガジンエリアの亜空間爆弾をとめることができた。

残るはサンデーエリアとスマブラエリアである。

蛮「ちくしょー! 間に合わなかったか!」

マガジンの亜爆を自分で止めて見せたかった蛮。精神的ダメージがなぜかでかいようだ。

爆発まで残り14分。 ゲーム終了まで244分。 金額は648000円。

はたして残りすべての爆弾の爆破を止める事はできるのか!?

ミッション1

その1（後書き）

牢獄DEトーク

勝「ちくしょう……」

ルイージ「くそっ、兄さんじゃないのかよ」

藤龍「おまえずっとそればっかだな」

園子「金が手に入ったらああしてこうして……」

藤龍「こっちは壊れてるし……」

DK「でも、君はお金目当てじゃなかったんでしょ？」

勝「まあ、そうですねですけどできるだけ逃げ切りたかったんです」

藤龍「楽しみたい……か」

ミッション1 その2

現在停止された亜空間爆弾は一つ。

ハヤテ「あ、ありましたよ爆弾」

壱と分かれたハヤテは、南スマブラから東スマブラへと移動し亜爆のところにへと到達した。

チャリン

ハヤテ「これでOKですね。

では、行くとしますか」

借金執事はその場を離れた。

黄キノピオ「お、たこ焼き屋やないか!!」

黄キノピオはたこ焼きを発見した。

店員「おいしいたこ焼き売ってますよ。 値段はたったの1コ

イン! ほつかほかですよ」

黄キノピオ「いい機会やし買ってみるとするか」

食べる時間があるほど余裕らしい。

黄キノピオ「すみません、一つください……ってあんたピーチはんやないか!!」

なんとたこ焼きを売っていたのはピーチ姫だった。

ピーチ「あら、黄キノピオ。 逃走中の途中に食べていいの?」

黄キノピオ「ええんや、ええんや。 それより早くくれへんか?

ピーチ「はいはい。 じゃ、2個サービスしとくから頑張つてね」

黄キノピオ「おう! あんがとはん」

黄キノピオはたこ焼き(6個+2)を受け取り、たこ焼き屋を後に

した。

スネーク（どうしたものかな）

スネークは今、ダンボール置き場でダンボールの中に入ってハンターから隠れている。

スネーク（早く行ってくれとありがたいのだが……）

ふいに一匹の猫がハンターの前をよこぎ……らずにハンターの前で止まりハンターを見上げた。

ハンター「……ふう」

スネーク（……んなっ！）

ハンターは突然スネークのダンボールに腰掛けた。

ハンター「……タマ、君はいいよな。きつと悩みもあるんだろうけどでもそうやって気楽に生きている」

タマ（??）「にゃ？」

ハンター「俺なんてさ…… 足が速くてサングラスが似合っただけでハンターにされちまってよ……。そりゃ一人捕まえるたびに給料が50万ずつ増えるのはありがたい話だけど逃げ切られたら全部パー。君はこれをどう思う？」

なんとしゃべった！！　そして急に愚痴り始めた！！

スネーク（くそっ！　ミケよ、早く行ってくれぬか！？　私の

精神が持たん！！）

ミケ（??）「ミヤア〜」

スネーク（「ミヤア〜」ではないだろ！！　早く行け！！）

ハンター「そうかい、君もそう思うかい」

スネーク（何がだよ！！）

一人のハンターと一匹のネコ（と巻き込まれた一人の逃走者）の心の対話はその後しばらく続いたそう……。。

クラウド「お、発見発見亜空間爆弾」

全逃走者の中で二番目に足の速いクラウド。最近のお悩みは女に見間違えられることだ。

クラウド「じゃ、ちやちやっとやるか」

チャリン

ガコン！！

クラウド「よし、初ミッションクリアだ！」

ピピルピルピルピルピル

マルス「だから長いつて！！」

メタナイト「この曲は変えられんのか？」

みなさん着メロにご不満の様子。

樹、ハヤテ、クラウドの協力によりスマブラエリアの亜空間爆弾をとめることができた。

残るはサンデーエリアのみである。

咲夜「やるなあ、ハヤテのやつ！！」

四月一日「同じ家事系の人間として、負けられんな」
妙なところで対抗心を抱く霊体質者。

ピカチュウ「西サンデーエリアで勝改造確保」

絶望先生「がーーーーーん」

同じ原作者ゆえにおそらく一番ショックがでかかった人。

絶望先生「絶望した！！ 改造さんをつまえるハンターに絶望した！！」

爆発まで残り8分。

ゲーム終了まで238分。

金額は72

0000円。

はたして最後の爆弾を発見しコインを入れることはできるのか！？

ミッション1 その2(後書き)

牢獄DEトーク

改造「あれはまさに10人に一人の強者だ!!」

藤龍「言っちゃったよ」

ルイージ「兄さんじゃ(以下略)略すなよ!!」

藤龍「もうしつこいぞお前」

園子「ち、男がまた減った」

藤龍「お前もそれから離れろ」

勝「なんか牢獄が怖い……。けど中にいなきゃだめなんでしょ？」

藤龍「常識人が少ないと思う今日この頃だ」

DK「でもお前も常識知らずじゃないのか？」

藤龍「……………」

ミッション1 その3

現在停止された亜空間爆弾は2つ。

良守「くっそー！ どこだー！！」

東サンデーエリアを捜索中の結界師。

良守「妖探しよりもめんどくせえー！！」

だんだんヤケになってきたらしい。

サトル「……いままでハンターに遭遇していないのは運がいいからなのか？ それとも忘れ去られてるからなのか？」

原作的に一番陰の薄い逃走者、サトル。

サトル「……作者があれだから悪いんだ」
逆恨みだ。

サトル「とりあえずこっちのほうに……ってハンター！？」

ハンターがいた。しかし気づいてないようだ。

サトル（……あれ？ あのハンター、なんか変……。ダンボ
ールに座ってるしネコに話しかけてるし……）
そう、そのハンターは……。

スネーク（いい加減どけー！ って、ん？ あれは確か

…… 名前は忘れたが同じ逃走者のメンバーだったな）

あのハンターだ。

ハンター「シャミセン……」。

俺なんてさ、親に付けられた名前

が『狩人』なんだよ。　そして苗字は『半田』……。　まるで生まれた時からハンターになる運命だったみたいだよ……」

サトル（シャミセンで、あれかよ!?）

シャミセン（??）「にゃ？」

スネーク（あの者が見つかったければ恐らくこのハンターは少なくとも立ち上がるだろう。　だから頼む！　俺のために捕まってくれ!!）

サトル（……なんかだれかに嫌な目で見られてる気がする）

サトルは回れ右をしてその場を離れようとした。

が、

カラーン！

サトル（やべ!!　空き缶蹴っちまった!!）

ハンター「ん？　まあどうせ、気のせいだろうな……」

サトル・スネーク（……………）

ハンター「なあミーちゃん。　俺はさ……」

サトル・スネーク（またか……）

そして人数が一人増えて心の対話はその後またしばらく続いたそう
な……。

ワグナー「一体どこにあるんだよ!!」

こちらと同じく亜空間爆弾をさがして南サンデーエリアにいる人。

ワグナー「……あれってもしかして……」

何かを見つけたらしい。

ワグナー「見つけた……」

メタナイト「何をだ？」

ワグナー「ズザ……」

亜爆だと思ったものはどうやらメタナイトだったらしい。

ワグナー「そうだよな、よくよく考えたら亜空間爆弾がこんなに

小さいわけないもんな……」

メタナイト「何か無礼な事を言われた気がするが……まあいいだろう。見つけたか？」

ワグナー「いんや」

メタナイト「そうか、では共に探すとしよう」

ワグナー「そうだな。 (そのほうが逃げ切れる可能性も高いし)」

メタナイト「？ 何か言ったか？」

ワグナー「いや。 じゃあ行こうか」

こうしてワグナーはメタナイトと共に行動する事になった。

薫「あつた!!」

令子「あつたわ!!」

チャリン、チャリン

令子「よし、じゃあ早速みんなに連絡を……」

ピリピリピッ

スネーク・サトル(やばっ!!)

ハンター「ん、今なんか聞こえた気がしたけど……気のせいだよな……」

どうやら気のせいという事にしたらしい。

兼一「頼むから静かに!!」

ハンター「!!」

携帯ではなく兼一の声でハンターが気づいた。

兼一「やばっ!!」

ポンッ

しかし走り出す前に捕まってしまった。

兼一「ちつくしよー！ー！！ 携帯め！！！！」

逆恨みだ。

逃走者全員へ！

サンデーエリアの爆弾は西サンデーの梁山泊前！！

あと一つでクリアだからみんな早く来て！！

令子&薫

はじめ「梁山泊か…… 兼一がやりそうだな」

ピロピロピンッ

映児「誰か捕まったか……このタイミングで」

はじめ「北サンデーで兼一確保って……捕まっちゃったか」
不運なる弟子。

爆発まで残り2分。 ゲーム終了まで232分。 金額は73
2000円。

クレイジー「マスター、どうすんだ？」

マスター「こうなってはどうしようもない。 皆に任せよう」

藤龍「ミッションという形でやらせるんですね？」

マスター「そういうことだ。 しかしまさかこんなことになる」と

はな……」

「一体何が起きたのか!？」

そして爆弾を止められるのか!？」

ミッション1

その3(後書き)

牢獄DEトーク

兼一「……………」

勝「い、いらつしやい」

改造「なんかすごい殺気が……………」

DK「避難する」

藤龍「……………どうした？」

兼一「……………なんでこのタイミングで俺を捕まえたんだ!？」

藤龍「はあ?」

兼一「ハンターに司令をだしてるのはおまえなんだから!！」

藤龍「いやちよつとまてケンイチくん。　きみは何か勘違いをしているぞ?」

兼一「最強コンボ!　最強コンボ2号!　最強ショートコンボ!

流水制空最強コンボ3号!!!」

藤龍「グワツ!　ノガツ!　アギヤツ!」

ルイージ「フルボツコだな……………」

園子「治療が大変ね……………」

ミッション1 その4

残る亜空間爆弾は1つ。
必要なコインも1つ。

龍斗「だめだ、間にあわねえ」
現在中央広場にいる龍斗。
龍斗「頼む、他の奴ら」
諦めたらしい。

薫「はやく来なさいよ!!」

令子「本っ当に遅いわね!!」

薫「残り1分30秒しかないのに!!」

爆弾前で待機中の女子2人。

令子「早く……って誰か来た!!」

薫「あ、あれって!」

???「お、令子はんと薫はんやないか」

黄キノピオだ。

薫「ちょうど良かったわ!! 早くコインを入れなさい!!」

黄キノピオ「分かつてる。 ……あれ?」

令子「……どうしたのよ」

黄キノピオ「……あゝ!! そっかそっか。 ついさっきたこ

焼き買うのにコイン一枚使ったんやった!!」

薫・令子（……死ねよ、お前!!）

黄キノピオ「ん? なんでそんなに怒ってるん?」

どうやら正真正銘のバカらしい。

薫（やばい! 残り1分!!）

令子（早く来なさいよバカ！！）

黄キノピオ「あゝ、にしても美味かったな」

令子・薫「ブチッ！！！」

2人の中で何かが切れた。

令子・薫「お前はさっさとどっか行け！！！！」

2人息を合わせて黄キノピオを吹っ飛ばした。

マリオ「ん？　今なんか飛んで行ったような気が……　流れ

星か？」

ちなみに初めに言い忘れたが時は夜である。

マリオ「にしても距離があるな……。　すまん、参加できない」

現在北スマブラエリアのマリオ。

西サンデーまでは距離がある。

薫「やばいよ残り10秒！」

10

9

8

????「Hey, guys!　なにやってんだ!？」

7

一陣の風が2人を横切った

6

チャリン

5

ガコン！！

ピピルピルピルピルピル

スネーク・サトル（こんどこそバレた……！！）

半田「ん？　なんだ、俺の携帯か……」

なんと偶然にもこのハンターの着メロがエスカ　ボルクだったのである！

46

薫、令子、ソニックの協力によりサンデーエリアの亜空間爆弾をとめることができた。

よって、ミッションクリアである。

全員（「よっしゃああああああああ……！！！！」）

薫「よかったあ……」

令子「ホントね……。　ちょっとあなた、もっと早く来なさいよ

！　　心臓に悪いじゃない……」

ソニック「Oh Sorry！　　ヒーローは遅れてやってくるZ

E　　」

薫「……」

令子(……なんだろう、今コイツにすごい殺気を覚えたんだけど)
ソニック「それじゃ、俺は行くZ E」
令子「……………」

薫「……………」

ソニック「SEE YA!」

ソニックはまた一陣の風となってその場を去った。

一方その頃……

ロイ「陛下!!」

国王「今度はどうした!!」

ロイ「爆弾がすべて起動停止になったようです!!」

国王「なんと、それはまことか!!」

ロイ「はい!! 協力してくれた者は、樹、サムス、ソニア、良

守、ハヤテ、クラウド、薫、令子、ソニックという方々です」

国王「そうか……。では、その者たちをここに呼んでくれまい

か? 礼がしたい」

ロイ「はっ!!」

ピ、ピ、ピーッ

ワグナー「これまた愉快的な着信音だな」

マルス「え」と、通達だ!!」

ハヤテ「今回ミッションに参加したものは」

良守「今から30分以内に南スマブラエリアにあるサンマガ城に行く」と

樹「逃走に有利なアイテムがもらえる。

マジで!?!」

サムス「30分を経過するともらえなくなるので」
クラウド「急ぎたまえ!!! 言われなくても移動してる!!!」

通達1

今回ミッションに参加したものは、今から30分以内に南スマブラエリアにある城に行くと
逃走に役立つアイテムがもらえる。

ソニック「行かないはずがないZEE!!!」
ものすごいスピードでサンデーエリアからスマブラエリアに移動したハリネズミ。
ものの一分で移動した。

令子「行くわよ!!!」
薫「分かってる!!!」
こちらも全力疾走で動き出した二人。
距離的には厳しい。

クラウド「ついた!!!」
一番近いところにいたクラウド。
一番先に来たようだ。
クラウド「クラウドです!!!」
国王「そうか、そなたがクラウドか」
クラウド「はい!!!」
ロイ「陛下からのお礼ということです。

このなかから一つ選ん

「

靴、小型銃、透明なメガネ、虹色の飲み物、フック付きロープ、わら人形、ファイアーエムブレム、ラジコンカー、コーヒー牛乳

クラウド「コーヒー牛乳!!! これしかあるまい!!!」

「コーヒー牛乳が大好きなクラウド。 真っ先に選んだ。」

国王「本当にそれで良いのか？」

クラウド「はい!!!」

国王「では、もっていくがいい」

クラウド「ありがとうございます!!!」

クラウドはコーヒー牛乳を手に入れ、移動を再開した。

アイテム入手付加まで残り28分。 ゲーム終了まで224分。

金額は82万8千円。

果たしてアイテムを入手できるのは何人か!?

ミッション1

その4（後書き）

牢獄DEトーク

Dr.マリオ（以後ドクター）「はい、これでOKだ」

藤龍「ありがとうございます……」

改造「肋骨八本と右足の複雑骨折と心臓の一時停止でよく生きてられましたね……」

勝「普通なら死んでると思うのですが」

園子「それにドクターもどうしてそこまでの重症をカプセル数個で直せちゃうの？」

ルイージ「うん、僕もそれが気になる」

ドクター「それは、禁則事項だ」

藤龍「兼一よ、後で痛い目見るからな！」

兼一「ふんっ!!」

ルイージ「あゝ、早く兄さん捕まってくれないかな」

通達 1 その 1

樹「城まではまだあるな……!!」

西スマブラエリアにいる樹。

樹「頼むからハンター来てくれるなよ!」

ハヤテ「ありました城!!」

二番目に城に到達したのは、ハヤテだ。

ハヤテ「綾崎ハヤテです!」

国王「そうか、そなたがハヤテか」

ハヤテ「はい!」

ロイ「陛下からの謝礼です。この中から一つを選んでください」
ロイが指差した場所にはコーヒー牛乳を除くアイテムが並べられている。

ハヤテ「(……なんでしょうか、この怪しい色をした飲み物は)じやあ、これにします」

ハヤテが選んだのは、ラジコンカーだ。

国王「よかるう、ではこれと一緒に持ってゆくがよい」

国王が取り出したのはアンテナが立っているちよつと変わったメガネだ。

ハヤテ「ありがとうございます!!」

ハヤテはラジコンカーとアンテナメガネを受け取り、その場を離れた。

ハヤテ「お、説明書があります!」

このラジコンカーの動かし方は普通のラジコンカーと同じ。

しかしこのラジコンカーには小型カメラが設置されている。
アンテナ付きメガネをつけていれば、左レンズにラジコンカーが写
した映像が流れる。

メガネの機能を使いたくない場合には、アンテナの根元についてい
るボタンを押せばメガネの電源がオフになる。

またつける場合にはもう一度押せばいい。

ハヤテ「これを使えば離れていてもハンターの居場所が分かって
ことですね！ ラジコンならまかせてください！！」

ikkki「やべえよ、ハンターいるし」

現在東マガジンエリアにいるikkki。

ミッションには参加していないのでアイテムを貰う事はできない。

ikkki「いくらなんでも振り切れるもんじゃないでしょ……」
しばしの間待つらしい。

良守「良守です！」

ロイ「陛下からの感謝の気持ちです。 この中から一つ選んでく
ださい」

良守「……なにこの札…… コーヒー牛乳所持者クラウド！？ コ

ーヒー牛乳あったのか!？」

一足遅かった。

良守「……じゃあ、このわら人形を」

国王「よかるう。 ではこれらも持ってゆくがよい」

良守は数本の釘とトンカチとわら人形を受け取り、その場を離れた。

良守「……クラウドめ、これで呪ってやる……」

コーヒー牛乳の恨みをはらすためにもらったらしい。

コナン「ちっ、速いんだよこのハンター!!」

ハンターに追われている小学生探偵。

現在東サンデーエリアにいる。

コナン「このままじゃ……」「うおーい、新一!!」「阿笠博士!!」

阿笠博士に呼び止められた。

阿笠「新一、お前にこれを渡しておく。ソーラーボードの充電

をしておいた。これで夜でも30分は持つだろう」

コナン「サンキュー!!」

コナンはソーラーボードを受け取り、それにすぐさま乗った。

コナン「これで振り切ってやるぜ!!」

そしてその後すぐにそのハンターを振り切ったが

市民「うわっ!!」

コナン「危ない!!」

スピードの出しすぎによって急ブレーキがかけれなかった。

そこでコナンはボードをわざと壁にぶつけ、機能停止にした。

コナン「大丈夫ですか!？」

市民「あ、はい。キミも大丈夫か？」

コナン「はい、大丈夫……」

ポンッ

コナン「……です……」

しばらくの間止まってしまったのでハンターが追いついてしまったらしい。

コナン確保。

残り43名。

ピロピロピンッ

蘭「え！？ 東サンデーエリアでコナン君が確保！？」
はじめ「俺より先に捕まったか……」

樹「やっと着いた……。 すみません、南樹です」

ロイ「（もういちいちセリフ言うのめんどくせえ）この中から一つ
選んでください」

樹「……じゃあ、靴にしようかな」

ロイ「では持っていてください」

樹「でもこの靴一体なんなんだ？」

樹は少し離れた場所で説明書を読んだ。

この靴はただの靴ではない。 阿笠博士発明のキック力倍増シューズだ。

靴の側面についているダイヤルを回せば威力が上がる。

樹「……使えそうだな」

アイテム入手不可まで残り13分。

ゲーム終了まで209分。

金額は100万8千円。

通達 1 その1（後書き）

牢獄DEトーク

コナン「……金より人命の方が大事だ」

園子「なあ〜によ、ガキンチョ。 なんで捕まっちゃってるのよ」

コナン「無茶言わないでよ園子姉ちゃん。 ハンターだったもの
すぐく速いんだから」

本日はここまで！！

全員「おい！！！！」

通達 1 その2

ワーグナー「にしてもハンター見ないな……」

メタナイト「3体だからな。その分確立が低いのだろう」

実を言うと現在移動中のハンターは2人で、残り1体はネコ相手に愚痴をこぼしている。

合流してから一度もハンターに出くわしていない2人。

現在中央広場にいる。

ワーグナー「あゝあ、ハンター放出ミッションとか出ないかな」

一方その頃……

少年A「営業妨害だな」

医者A「病院の前にこんな置くの誰だよ！」

少年B「練習ができねえだろうが!!」

そこにあるのは、それぞれ3体ずつのハンターボックス……。

ピリリリッ

清磨「このタイミングでミッションかよ！」

マリオ「ミッション2。サンマガランドに合計9体のハンター

ボックスが設置された。9体!？」

蛮「残り170分になるとハンターがランド内に放出される」

ネギ「止めるにはそれぞれのハンターボックスのカンヌキを降ろす必要がある」

咲夜「いそぎたまえって、なんでさっきからこんなハードなミッシ

ヨンばっかやねん!!」

ミッション2

サンマガランドに合計9体のハンターボックスが設置された。それらは残り170分になるとランド内に放出される。止めるにはそれぞれのハンターボックスにあるカンヌキを降ろさなければならぬ。

令子「今はアイテム優先、でいいよね!？」

薫「ええ!!」

現在北スマブラエリアにいる2人。
ミッションは後回しにするようだ。

ソニック「Hey、王様!! アイテム貰いに来たぜ!!」

ロイ「(……SEG Aが来たか)ではこの中から一つをえ」「それじゃ、SEE YA!!」……」

どうやら説明してる間に選び、移動したらしい。

城からは彼の居場所が分からないほどだ。

ロイ「……あいつ、まさか、あの貴重品を……!!」

ロイは頭を抱えた。

一方その頃……

吾郎「……ここ、どこだ……？」

謎の場所にいる野球選手。

吾郎「なんかエリア移動したつもりなんだけどな……
ったんだ？」

なにがあ

周りは真っ暗で星がまばらにある。

絶望先生「絶望した！ 急に訳の分からない場所に来た自分に絶

望した！！」

こちらも謎の空間にいる。

絶望先生「……どこなんでしょうか、ここは……」

フォックス「……ここは、どこだ」

謎の空間に飛ばされたのは二人だけでは無かった。

フォックス「他のやつらは……？」

玲羅「ここ、どこ……??」

龍斗「地図見る限りでも、こんな場所ねえもんな……」

合流した直後に飛ばされた二人。

玲羅「それに、タイマーも、金額も、止まってる……」

龍斗「……」

ピ、ピ、ピーッ

スネーク・サトル（さあ、これでもう気づくだろっ！…）

半田「なあ、コロ……」

どうやら気づかないらしい。

スネーク（だめだな、こやつをポジティブにせねば……）
サトル（ってかコロって……もうネコの名前じゃねえ……）

ソニア「通達みたいですが……なんでこんなに本部からのメールが多いのでしょうか……」

サムス「なにかあったのかしら……」

清曆「通達2。 逃走者の吾郎、絶望先生、フォックス、龍斗、玲羅が行方不明になった。 えええ!!?」

アイク「諸君には、彼らを見つけてほしい」

ルカリオ「見つけた者は、逃走成功または自首をした場合もらえる金額が2倍になる」

ピカチユウ「ちなみに命に関わる可能性があるので、是が非でも見つけてほしい」

映児「よろしく頼む。 ……くそっ！ こんなときに能力が使えないとはな!!」

通達2

吾郎、絶望先生、フォックス、龍斗、玲羅の五名が突如行方不明となった。

彼らを見つけたものは、もらえる金額が2倍になる。

時間は問わないが、命に関わるかもしれないので、是が非でも探してほしい。

藤龍「……………これでいいのか？」

マスター「ああ。彼らが急に消えたんだ。きつと裏には何かある」

クレイジー「いつもの状態だとこの空間で動く事ができねえからな

……………でも人間の状態だと技が使えないから困ったものだ」

藤龍「……………マスター、教えてくれ。どうしてあなたはあいつらに逃走中をさせたのですか」

アイテム入手不可まで残り5分。ハンター放出まで残り31分。

ゲーム終了まで残り201分。

アイテムを入手できるのは誰か！ハンター放出は免れるのか！

そして彼らは見つかるのか！！

通達 1 その2 (後書き)

牢獄DEトーク

藤龍「やる気が起きないので今回はなし」
全員「うおい!...!」

通達1、2 ミッション2

プリン「動かないプリ。 見つかりたくないプリ」

動く気が全く無い食べ物。

プリン「食べ物じゃないプリ!!」

ナツ「あいつらどこ行っただ？」

ハンターボックスではなく消えた人たちを探している人。

ナツ「でも行方不明つてのもなんか変だな〜ってハンター!!」

ハンターをいち早く発見し、すぐそばの物陰に隠れた。

半田「なあ、ポチ……」

ナツが発見したのはお悩みなハンターだった。

傍から見たら可哀そうな人である。

半田「そうか……そうだよ!!」

ナツ（……なにをだよ）

半田「こんなことでクヨクヨしててもしょうがない!! 今の俺

はハンターなんだ!!」

半田は立ち上がった。

半田「ありがとう、チビ。 これはお礼だ受け取ってくれ」

チビ（???）は謎の物を受け取った。

ナツ（……あれ、なんだ？）

半田「俺は、やつを捕まえる!!」

半田はナツ目掛けて突進した!!

ナツ「俺かよ!!!」

ナツも走り出したが、突然の事だったのでスタートが遅れ、

ポンッ

ナツ「なんだよ、騙まし討ちかよ……」

ナツ確保。

残り42名。

ルカリオ「ナツ確保か……」

ikki「やばい、減ってく……」

スネーク「よし、やっと動ける！」

ハンターがどいたことによりようやく行動可能となったスネーク。

スネーク「シヨウ・タイムだ！」

スネークはダンボールを取った。

ネコ「あゝ、やっとご主人様のところに行けるニヤ」

スネーク「!!!」

なんとネコがしゃべりだしたのである！

ネコ「ほんと、ハンターならハンターらしくしろって感じたニヤ」

ネコは後ろ足で立ち上がり、二足歩行で歩き出した。

スネーク「……なんだっただ、あれは」

頭の整理中となった。

サトル（ネコが二足歩行……!!!）

こちらで現状で起きた事が理解できない人。

サトル（……疲れてるのか、俺）

早く休憩時間にならないかと期待している影薄者。

藤丸「……ダメだ、これじゃ分からない」

携帯を使って消えた逃走者たちの居場所を調べようとしていた天才ハッカー。

藤丸「諦めてハンターボックスを探るか……？」

清磨「あつた！」

ハンターボックスを発見した天才中学生。

その場所は……。

???「キミ、逃走者かい？」

清磨「え、あ、はい。あなたは……」

???「俺はドクターマリオ。ドクターでいい」

清磨「じゃあ、ドクター。ハンターボックスを封鎖させてくれないか？」

ドクター「別にいいんだけど……」

ドクターは一つ間を空けてから言った。

ドクター「ある人をここに呼んできてほしいんだ」

清磨「誰をだ？」

ドクター「真東輝という医者なんだ。散歩に行ってから戻って

こなくて」

清磨「わかりました！ 真東輝ですね!？」

清磨はすぐに病院を後にした。

マリオ「はあ…… どこにあるんだよ……」
ハンターボックスを捜索中の配管工。
マリオ「植物園にでも行ってキノコ盗み食いしようかな……」
犯罪をお考えのようだ。

令子「よし、やっとついた!!」

薫「明石薫と美神令子、来ました!!」

ロイの説明を受け、二人はアイテムを受け取った。

令子・薫「失礼しました!!」

ちなみに、二人が選んだアイテムは令子が小型銃で薫が透明色のメガネだ。

アイテム入手不可まであと10秒……

9……

8……

サムス「もう少し!!」

ソニア「神よ、私たちにご加護を!!」

6……

5……

4
……

二人と城までの距離は50メートル……

3
……

サルス「仕方ない!! パワードスーツ・オフ!!」

ガシャン!!

2
……

サルス「サルス・アランです!!」

ロイ「ギリギリですね。では、この中から一つを選んでください」

サルスが選んだのはフック付きロープだ。

0
……

~~~~~

国王「あと一人残っていたようだが、仕方あるまい」

ロイ「そうですね。長い時間外に出るわけにも行きませんし」

~~~~~

ピ、ピ、ピーッ

マルス「通達3だ!!」

四月一日「時間的にミッション参加者アイテムのことかな？」
ネギ「アイテムの配給を終了する。……まあ、僕には関係ない
ですね」

ソニア「間に合わなかった……」

サムス「ごめんなさい……、あなたの分を貰う事ができなかった……」

本当にすまなさそうな顔をしているサムス。

ソニア「いえ、大丈夫です。 たぶんまた、チャンスがあります
！」

前向きに考える事にしたようだ。

ハンター放出まで残り25分。 ゲーム終了まで残り195分。

果たして、何体までハンターの放出を防ぐ事ができるのだろうか！

そして、行方不明になった人たちはどうなるのか！！

????「サンマガブラザーズ、消すー！」

通達 1、2 ミッション 2 (後書き)

牢獄 DE トーク

ナツ「ここが牢獄か……」

ルイージ「あれ、もしかしてここまできてつかまったスマッシュユブ
ラザーズって、僕だけ!？」

藤龍「そういうこと」

類似「ひどいやひどいや!! ていうかなんで「類似」なのさ!
!」

藤龍「めんどくさいから」

コナン「一人だけ四文字だからな……」

類似「ひどいやひどいや!!」

通達2、ミッション2（前書き）

今回、登場キャラが少ない方です。

通達2、ミッション2

現在計五名の逃走者が行方不明になっている上、九体分のハンターボックスが設置されている状況。
さらにボックスを封鎖させるのにもそれぞれ条件が必要な模様。

蛮「来たぜトンキーホンク！」

用もないのにトンキーホンクに来た蛮。

????「あ、蛮ちゃんだ〜！」

真横にある公園から一人の男性が出てきた。

蛮「お、銀次じゃねーか」

その男は天野銀次、蛮の相方だ。

銀次「よかつた〜、来てくれて」

蛮「? どうしたんだ？」

銀次「実は30分ぐらい前に突然店の前にこんなのが置かれててさ……」

銀次はそう言つて公園の中に移動させたハンターボックスを蛮に見せた。

蛮「!」

銀次「あ、やつぱりなんか知ってる？」

蛮「ああ、でかしたぞ銀次!!」

蛮はそう言い、カンヌキに手をかけた。

だが、カンヌキは降りない。

カンヌキの根元には暗証番号認証機。

蛮「……おい銀次、これを見つけたとき、なんか紙みたいのを見なかったか？」

銀次「紙……あ! これのこと？」

銀次はそう言つて紙を取り出し、壘に渡した。
壘「え、ハンターボックスの暗号は左が 綾崎ハヤテの借金の
量。ちなみに0は抜かす。真ん中が工藤新一が飲まれた薬の
数字。右がステイル「マグヌスの殺し名の数字」……ステ
イルって誰？」
サンマガブラザーズにとつては難攻不落とも言える暗号。
ちなみに調べれば出てくる。

黄キノピオ「う、ひどいやないか……いきなりゴミ箱に入れるな
んて」

令子と薫によつてゴミ箱に吹っ飛ばされた黄キノピオ。

黄キノピオ「にしてもここは一体どこなんや？ ていうか目の前
になんか怪しい切れ目があるし……」

黄キノピオの目の前には謎の空間がつつすらと見える切れ目があつ

た。(イメージとしては遊戯王の次元の裂け目)

黄キノピオ「入ってみるか」

黄キノピオは切れ目の中に入っていった。

ルカリオ「ここには無いようだな」

ハンターボックスを探しつつ、行方不明者を探すルカリオ。

ちなみに波動を感じ取る事はできない。

ルカリオ「あれは……いやまさかな……」

ルカリオはなにか気になるものを見つけたらしいが、今は気にしな
いで置く事にしたらしい。

ルカリオ「あれが本物だという事はありえない。

もし本物だつ

たら、この逃走中は死者が出る」

良守「クツクツクツ……このわら人形でヤツを……呪ってやる！」
結界師がそんなことを言っているのか！

良守はその辺に立っていた大木にわら人形を押し付け、その腹部に釘を打ち付けた。

カーン……カーン……。

夜だけに、怖い。

良守「これでいいだろう。あとはやつが捕まるのを待つだけ……」

わら人形を刺しっぱなしにし、その場を離れた。

それがその後、悲劇を呼ぶとも知らずに……。

クラウド「な……」

急にめまいを起こしたクラウド。

クラウド「なにが、起こったんだ……」

立っているのも辛いほどだ。

そしてその近くにハンター！

ハンター「！」

見つけた。

クラウド「やばい……しかもハンターが……」

ほぼ同時にハンターに気づき、走り出そうとするが、足がふらつき、思うように動けない。

クラウド「くっ……しょうがない……。温存しておきたかった

が……」

クラウドはコーヒー牛乳を取り出し、それを半分ほど飲んだ。

テンションが5上がった！ 25上がった！ 50上がった！
100上がった！！

クラウド「スーーーーーパーーーーーパーーーーーパーーーーー
ー！！！！」

クラウドはスーパーハイテンションになった！！

クラウドの体力、状態異常が回復した！！

クラウド「行くぜ行くぜ行くぜ行くぜ行くぜ！！！！」

SHTとなったクラウドはソニックをも越えるスピードで一気に走った。

ハンター「……………」

見失ったようだ。

サトル「あつた！！」

スネーク「意外と近かったな」

ともに怪奇現象を見たという体験から、ともに行動する事になった二人。

ハンターボックスを見つけたようだ

「？？？」「おい、おめえら。 この練習場になんかようつか？」

背後から突然、声をかけられた。

その人物は眼帯で左目を覆っている少年だった。

スネーク「練習場？」

サトル「というかキミは…………？」

「？？？」俺は^{アキト}アキト。 ついさつきまでここでエアトレックの練習をしていた

サトル「さつきまで？」

アキト「ああ。 なんかいきなりその変な箱が出てきたからな。

運ぶのもタルいし」

スネーク「では、俺たちに譲ってもらえないか？」

呶「別に良いけど……タダで渡すつても気が引けるな……」。

……そうだな お前ら、南樹つてやつ知ってるか？」

サトル「ああ。知ってるけど」ならそいつをここに呼んでこい。

そうすりゃ譲ってやる」

現在、南樹は中央広場にいる。

練習場は北スマブラエリアなので、ここから追いかけるにはかなりの体力と足の速さが必要とされる。

ハンター放出まで残り15分。 ゲーム終了まで185分。
間に合うのか、サンマガブラザーズ!!

藤龍「……なあ、マスター……あれつてもしかして……」

クレイジー「……コイツアやっかいだな」

マスター「まさかこんなに早く行動を開始するとはな……」

果たして三人が見たものとは!?

通達2、ミッション2（後書き）

牢獄DEトーク

類似「どうせ僕なんて」

ネガティブゾーン発動中！

改造「100人に一人のマイナス思考だ!!」

勝「……そんなことより、あれは一体……」

兼一「なんか不気味だな」

ナツ「嫌な予感がピリピリするぜ……」

園子「ガキンチョ、なんか分かる？」

コナン「……いや、あんなもの、少なくとも俺たちの世界には……

！」

牢獄メンバーもその存在を知った。

通達2、ミッション2 その2

ハンター放出まで残り15分。 しかし、いまだに一つも封印で
きていない状況。

ハヤテ「ハンターがいますね……………」

ラジコンカーで周囲の状況を偵察中のハヤテ。

ハヤテ「あれ、あそこにいるのって樹さんですよ……………。 ハン
ターが近づいてる事を伝えておきましょうか」

ピピピ

プープー

ハヤテ「通話中ですか……………」

プルルル

樹「ん？ 誰からだ？」

樹は通話ボタンを押して、耳に当てた。

「……………」 「もしもし、こちらスネーク」

樹「よお、スネーク。 いつたいたんだ？」

スネーク「実はハンターボックスを見つけたのだが、そこにいる者
が交換条件としてお前を要求した。 「罠という者だ」

樹「罠が？ 「てことは練習場か。 「分かった今行く」

ピッ

樹は電話を切り、練習場へ向かって走り出した。

四月一日わたぬき「なんだか妖がやけに多い気がするんだが……」
霊感体質者の四月一日。 普段なら妖につきまとわれるのだが逃走中ではその心配はない。
四月一日「お寺でも夏の海でもないのにどうしてこんなに多いんだ？」

はじめ「おい来てるぞー!!」

映児「分かってる!!」

同行中の二人。

ハンターに追われているようだ。

そしてその行く先に赤帽子……。

マリオ「あ、二人とも……で、ハンター連れてくるなよ!!」

はじめ・映児「いいから走れ!!」

さらにその先にT字路。

はじめ「二手に分かれるぞー!!」

映児・マリオ「了解!!」

右にはじめ、左にマリオという分かれ方になった。

はじめ「ハンターは、来てない。 　　ってことはあっちか……」

映児「畜生、きてやがるし!!」

マリオ「どうする!?!」

映児「……しようがねえ! 　　すこし我慢しろ!!」

映児はマリオを掴み、はるか後方へと投げ飛ばした。

ハンターの頭上を越え、見事ハンターから逃れた。

映児「ここまでだな……」

ポンッ

映児確保。

残り41名。

はじめ「映児が捕まっちまったか……」

蒼「やっと出られた……」

広大な草原に来てしまった蒼。

どうやらハイラル牧場だったらしい。

秋葉「あ、蒼さん」

蒼「秋葉さん!？」

合流したゲスト女子の二人。

ちなみにもう一人、玲羅は行方不明中。

秋葉「玲羅の居場所に関してなにか手がかりは？」

蒼「ないわ。　　というかさっきまでずっとこの牧場にいたんだもん!」

秋葉「そうですか……。　　じゃあ、一緒に探しましょう!」

蒼「そうね。　　その方が効率いいし、龍斗も見つかるかもしれないもんね」

共に行動することになった二人。

黄キノピオ「いったいなんなんやここは……。」

って誰かおるし」

謎の空間に入り込んだ黄キノピオ。

????「あ、あなたは……」

黄キノピオ「おお、絶望先生やないか!」

絶望先生「絶望って言うなーーーーっ！！！」
黄キノピオ、絶望先生を発見。
その瞬間、二人の体を光が包んだ。

ピ、ピ、ピーッ

景太郎「通達だ！」

ソニア「黄キノピオ、絶望先生こと糸色望を発見」

薫「よって黄キノピオの賞金が倍になった。 あんのやるゝ！」

蛮「考えても答えは出ないな……本人に聞くか」

蛮は携帯を取り出し、どこかに電話をかけた。

プルルルル

ガチャッ

??? 『はい、ハヤテです』

蛮「よう、生きてるか？」

ハヤテ『ええ、なんとか』

蛮「そうか。 ところでつかぬ事をお伺いするが、お前の借金の総額っていくらだ？」

ハヤテ『え？ 一億五千万ですけど……』

蛮「そうじゃなくてももっと細かい数字で」

ハヤテ『すみません、わかりません。 いままでずっと』一億五

千万』って言われてきたので……」

蛮「ち、まあしょうがねえか。 邪魔したな」

蛮は通話終了ボタンを押した。

蛮（次は探偵か……。 でもあいつ確か捕まってたよな……）

聖夜ノエル「よう、蛮」

蛮「聖夜か。　　すまんが、この暗号分らないか？」

聖夜「…………暗号？」

聖夜は紙を読んだ。

聖夜「…………楽勝だ」

蛮「なに!？」

聖夜「俺が言うから、お前は通りに番号を押してくれ」

蛮「あ、ああ…………」

蛮はボックスに近づいた。

聖夜「左が『15684』。

真ん中が『4869』。

右が

『931』だ」

ピピピピピ

ピーッ!

蛮「これで…………!」

ガコンッ!

蛮はカンヌキをおろし、ハンター放出を防いだ。

ピピルピルピルピルピル

ワグナー「蛮、聖夜の活躍により、ハンターボックスの放出を3
体防いだ」

ikkii「よし、これで残り2箇所だな!」

ハンター放出まで残り10分。

ゲーム終了まで残り180分。

通達2、ミッション2 その2（後書き）

牢獄DEトーク

映児「ここが牢獄……」

コナン「よう、映児」

ナツ「またサンマガ組みか……いい加減スマブラ組みもつかまれよ」

藤龍「いや、実を言くとスマブラ組みのことほとんど忘れていた…

…」

全員「うおい!!」

通達 2、ミッション 2 その 3 (前書き)

おひねごぶごびあー！

通達2、ミッション2 その3

残り10分間にハンターボックスを封印しなければ、最大で6体のハンターが放出されてしまう！

清磨「いったいどこにいるんだ、真東さん……」
雲をつかむような人探した。

???「おい、お前……どうしたんだ？」

清磨「あ、アイク」

清磨の進んでいた先にいたのはアイクだった。

清磨「なあ、真東輝っていう医者を見なかったか？」

アイク「医者……それならさつき見かけたぞ」

清磨「なに！？ どこだ!？」

アイク「中央広場の辺りだ。　だが、もう数分前の話だからもう

移動したかもな」

清磨「サンキュー!」

清磨は中央広場へと走っていった。

カービー「ここは……どこ?」

地図がまるで読めないピンク玉。

リンク「ここは南スマブラエリアだな。

城が見える。

だが、

かなり危ないぞ」

こちらは地図が読める。

そしてリンクの言うとおり、前方にハンターが!

まだ気づいてないようだ。

カービィ「回れ右で行こう」

リンク「ああ」

二人は回れ右して来た道に戻っていった。

樹「うおおおおおおお！　　なんできてんだよハンター！

！」

エア・トレック練習場へ向かう途中でハンターに見つかった樹。

樹「ちくしょつ！　奥の手だ！！」

樹は靴のギアをまわした。

キュイイイイン

樹「これでも、喰らえ！！」

そして近くにあつたゴミ箱を思い切り蹴った。

ハンター「……………」

ハンターは無言で避けた。

樹「……………え??？」

ポンツ

樹「……………なんだよこれ」

樹確保。　残り40名。

ハヤテ「つかまってしまいましたか……………ということはやはり先ほどのハンター……………」

スネーク・サトル「樹が死んだ！！」

それはこの二人にとつてとつともなく絶望的な知らせだった。

スネーク「どうすればいいのだ!？」

サトル「俺に聞くな!!」

これでハンター3体放出が確実となってしまった。

ワグナー「メタナイト! 二手に分かれるぞ!!」

メタナイト「……ああ!」

南スマブラエリアでハンターに出くわした二人。 二手に分かれた。

メタナイト「……こちらに来る気配はない。 ということは向かうか……」

ワグナー「ぬがああああ!! 来てしまった!!」

ハンターに目を付けられてしまったワグナー!

そしてその差は縮まるばかり……。

ポンッ

ワグナー「……まじかよ!!」

ワグナー確保。 残り39名。

メタナイト「すまない」

クラウド「ワグナーさん……」

プリン「どんどん減っていくプリ。 捕まりたくないプリ」

ベンチの裏に隠れているプリン。

そこに忍び寄る影……半田だ。

半田（よし、俺はハンターなんだ! どんどん捕まえてくぞ!!）

半田はベンチを横切……らずにベンチの前で立ち止まった。

半田（……ベンチの隙間から見えてるぞ）

プリン（早く行けプリ！）

ポンッ

半田（すまない）

プリン「プリッ！」

プリン確保。残り38名。

ピカチュウ「プリンが捕まった!?!」

ルカリオ「ポケモン組み初か……」

絶望先生「いや〜それにしても抜け出せてよかった」

黄キノピオ「わいに感謝するんやな」

黄キノピオのおかげで謎の空間から脱出できた先生。

だが、絶望先生のタイマーは時間は普通だが賞金が謎の空間に入る前の金額からとなっている。

絶望先生「では行きましようか」

黄キノピオ「せやな」

咲夜「ん？ あれは借金執事！」

ハヤテ「あ、咲夜さん。 どうですか？」

咲夜「まあ、ぼちぼちかな。 ところで自分、なにやっとんねん？」

しゃがみこんで聞いてみた。

ハヤテ「ああ、ラジコンです」

咲夜「なんや、この状況でグロスホッパーでもやつとるかいな？」
ハヤテ「違いますよ、カメラ付きラジコンカーです。カメラが
捕らえた映像はこのメガネの左画面に映されるんです」
咲夜「そっか。それなら自分は安心やな」
咲夜はその場を移動するために立ち上がった。
咲夜「ほな、うちは行くわ。自分、油断大敵やで？」
ハヤテ「ご忠告、ありがとうございます」

清磨「（医者……あ！）もしかして、真東さんですか!？」

輝「うん？　そうだけど、どうしたのかな？」

清磨「よかった……。あの、もろもろの事情があるのでいっし
よに病院まで来てもらえないでしょうか？」

輝「ああ、いいよ。ちょうどこの子の治療も終わったところだ
しね」

輝は今まで怪我を負った子供の手当てをしていたのだ。

子供「ありがとう、お兄さん！」

輝「どういたしまして、気をつけて帰るんだよ」

子供「うん！」

子供は元気に走っていった。

輝「じゃあ、行こうか」

清磨「……はい」

しかしここで、10分が経ってしまった。

ピルピルピルピルピルピル

蛭、聖夜の活躍により、3つのハンターボックスの封印に成功。

しかし残り6つを封印する事はできず、6体のハンターが放出され

た。

よって、ハンターは9体となる。

全員「嘘だああああああああああああああああああ！！！！」
「！！」

ゲーム終了まで残り170分。

ハンターが9体となり、かなりの脅威となってしまった。

通達2、ミッション2 その3（後書き）

牢獄DEトーク

ルイージ「やっとスマブラ組が捕まった!!」

プリン「うるさいプリッ!!」

ワグナー「ゲストキャラではじめて捕まってしまうとは……」

全員「そしてハンター9体ってなんじゃそりゃ!!」

藤龍「ごめんなさい!!（って俺たちも止めたかったんだけどな）」

通達2　そしてハンターの脅威（前書き）

サンデーキャラが目立ちすぎ？

だってサンデー派だもん。　マガジンはノリで使ったようなもんだもん。

通達2　そしてハンターの脅威

一箇所のハンターボックスしか封印できず、結局ハンターは9体になっってしまった！！

良守「ハンター9体とか……ふざけんじゃねえ！！」

わら人形が無意味になっている事に気づかず、移動中の結界師。

良守「……でもよく考えたら、あいつも捕まりやすくなってるってことだよな？　それってよくな？」

妙に前向きに考え始めた。

ソニア「絶対に、逃げ切りましょうね、サムス！」

サムス（ゼロスーツ）「もちろんよ！」

いつの間にか固い友情で結ばれた二人。

しかし今までの3倍のハンターから逃げ切るのは難しい。

サトル「走る、走る、俺たち」

スネーク「うるさい！！」

ハンター放出位置から最も近い二人。

スネーク「しかし、樹が捕まってしまうとはな……」

サトル「ああ、不覚だった。あいつ確かアイテム持ってたよな

？　それなのにどうして……」

そのアイテムが原因だ。

スネーク「……今思えば、ダンボールに隠れてハンターボックスをこっそり封印すればよかった……」
サトル「!!! いまさら遅いわ!!!」

耕介「お、ここにもゴミ発見」

ゴミを収集している能力者。

耕介「いざつてときのためにできるだけ集めておく」
用意周到+エコだ。

しかし、逃走中では能力を使うことはできない。

咲夜「さてと、ハンターは……いた!!!」

ハンターを発見した咲夜。そしてほぼ同時に見つかった。

咲夜「やばっ、追ってくるやんけ!!!」

全速力で走る咲夜。そして、ハヤテがいた森の方へと逃げ込んだ。

ハンター「……」

振り切ったようだ。

咲夜（よかったあ……）

その場を離れようとして、歩き出した。

ベキッ!

咲夜「ベキッ?」

ふと足元を見るとつぶれたラジコンカーが……。

咲夜「………すまん、ハヤテ」

ハヤテ「あ、あれ? 接触不良??」

レンズにノイズしか移らなくなっていた。

ハヤテ「なんでこんなときに……殺気!!」

いち早くハンターの気配に気づき、すばやく移動した。

ハヤテ「……危なかった。でももう、ラジコンには頼りませんね」

メガネをはずし、その辺にほっぽった。

???「ポイ捨て禁止……!!」

赤い帽子をかぶった少年が突然どこからともなく現われ、言い放った。

ハヤテ「え……と、レッドさん、ですよな?」

レッド「ああ。すまんがハヤテ。ポイ捨てをしないでくれないか?」

ハヤテ「? まあ、ポイ捨てはいけませんけどどうしてですか?」

レッド「ポイ捨てされたゴミを食べてしまったりゴミでケガをしてしまうポケモンたちがここ最近増えているんだ。それに、ヤブ

クロンやダストダスが増えすぎている。このままだと、サンマガランドに生息しているポケモンたちの生態系に悪影響を及ぼしかねないからね」

ハヤテ「そうでしたか、ご苦労様です」

ハヤテはメガネを拾い、レッドと別れた。

クラウド「ぬが……!!」

景太郎「わぎやああああ!!」

追われている二人。

クラウド「二手に分かれるぞ!!」

景太郎「冗談でしょ!」

クラウド「……空気読めや!!」

クラウドは浜辺のほうに、景太郎は森のほうへと走っていった。

クラウド「海だー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！
ハンターは来ていない。」

景太郎「やっぱ来たよー！！」

森の中なのでかなり動きにくい。

咲夜「あれ、あいつは……」

途中で咲夜とすれ違ったのにも気づかなかった。

景太郎「うお！」

つまづいた。

ポンッ

景太郎確保。 残り37名。

咲夜「やっぱ捕まりおつたか……」

クラウド「……計画通り（ニヤリ）」

マリオ「ハンター来ないでよな……」

忍び足で進むマリオ。 背中も猫背になっている。

マリオ「……？ なんだこれ？」

猫背になっていたので、謎の空間への入り口を見つけた。

マリオ「通達に関係あるかもな……行ってみるか」

裂け目に入ってしまった。

ゲーム終了まで残り153分。

藤龍「おい、もしもアレが復活したら……どうする気だ？」

マスター「……………」

クレイジー「……俺たちでもかなわないんだ」

藤龍「でもあいつらはアレの封印に成功した。

だったらまた…

…」

マスター「無理だ。　今回はこの前のようにはいかない」

藤龍「……なんで？」

マスター「邪悪なる波動を、無数に感じる」

通達2　そしてハンターの脅威（後書き）

牢獄DEトーク

景太郎「……………やられた」

ナツ「うわぁ……………！」

映児「マガジンキャラがどんどん減ってくな」

景太郎「作者、サンデーをえこひいきしてるだろ」

藤龍「してません」

ワーグナー「なあ、藤龍。　なんか隠してないか？」

藤龍「へ？」

コナン「そういえばさっきからなんかそわそわしてるよな？」

藤龍「……………」

プリン「なんのことプリ？」

藤龍「……………今日はここまで……………」

全員「逃げた……………」

通達2 来る、やつらが来る！（前書き）

……よかったよ、隣のクラスにハヤテ認めてくれる人が来て……。

ほんとむなしくなってきたところだった。

通達2 来る、やつらが来る！

清曆「着きましたよ……」

輝「ああ、ご苦労さん」

ドクター「輝！！ どこに行つてた！！」

輝「ごめんごめん、ちょっと散歩に出かけてたら怪我をした子供たちがいってね」

清曆「……」「たち」？ ということは他にもいたんですか？」

輝「うん。それもみんなまったく同じ怪我だった」

ドクター「どなんだ？」

輝「なんか、急に足が動かなくなつたらしい」

清曆「足が！？」

輝「まあ、痙攣を起こしていたからかもしれないけど、一番引つかかるのはみんなまったく同じタイミングで動かなくなつたらしいんだ」

ドクター「マジ！？ いったい何が……！！」

清曆（全員いつせいに……超常的なものの類か！？）

四月一日「……妖が多すぎる。何が起こつてるんだ？」

マルス「ここにもいるのかい？」

同行中の二人。そして四月一日の目のみ前方に見える大量の妖。

その数はもはや数えきることができないほどだ。

四月一日「くっ……こんなときに百目鬼ひゃくめくがいれば……」

マルス「それは、キミの友達？」

四月一日「！ とんでもない！！ ただ単にあいつがいると妖の影響を受けにくくなるからそれで……」

???「つまりなんだ、俺はお前に妖を寄せ付けないようにするた
めだけの存在なのか？」

四月一日「そ、その声は……」

四月一日が振り向くと、そこには白い制服を着た男がいた。

四月一日「百目鬼い!!」

百目鬼「おう」

四月一日「なんできさまがここにいる!!」

百目鬼「侑子さんからの伝言を伝えにきた」

四月一日「侑子さんが？」

百目鬼「……今日はやけに妖が活発だから、気をつけなさい」だ
そっだ」

四月一日「やっぱり侑子さんも気づいてたか」

百目鬼「それから、「逃走中で逃げ切らないとバイト料上乘せ」だ
と」

四月一日「つざけんな!」

百目鬼「やつぱアホだな」

四月一日「誰がアホだあ!!」

百目鬼「それから、明日の弁当はお好み焼きにしろ」

四月一日「つて、聞いてねえし!!」 それに弁当お好み焼きとか
作るほうの身にもなれよ「じゃあな」おい!!」

百目鬼は言うだけ言ってその場を去った。

マルス「……仲、いいんですね」

四月一日「よくねえよ!!」

メタナイト「あいつの分まで、逃げきらねばな」

移動中のメタナイト。だが、急に目の前に闇色の渦が現われ、

その中からメタナイトとは少し違う、一頭身の騎士が現われた。

????「……………」

メタナイト「なっ……きさまは、ギャラクティックナイト！」
ギャラクティック「……きさまに倒されたときの恨み……ここで晴らす」

ギャラクティックは剣を振り、メタナイトを攻撃した。

ちなみにメタナイトの剣は保管所にあるので応戦できない。

メタナイト「ここは、逃げるのが得策だな！」

メタナイトはすばやくその場を退散した。

ピ、ピ、ピーッ

アイク「この状況で通達か」

ネギ「え〜通達3。 これより裏切り者を募集する。 裏切り者!?」

乱馬「今から1分間の間、電話で裏切り者を宣告すれば、裏切り者になることが出来る」

ikki「ただし、先着一名までで、裏切り者はハンターに位置情報を伝える」

スネーク「裏切り者は一人通告して、その人がつかまると10万円を手に入れることができる」

リンク「ただし、裏切り者も同じようにハンターに追われ、つかまったら通告賞金は0」

スネーク「……どうする？」

サトル「どうするもなにも……一緒に行動してんだから裏切れるはずないっしょ？」

スネーク「それもそうだな」

ソニア（……サムスさんと一緒じゃなければ速攻で裏切ったのです
が……まあいいでしょう）

そのころ、本部と思しき場所に一通の電話が来た。

本部（？）「はい」

????「もしもし、????です。

裏切り者になります」

本部（？）「わかった」

裏切り者が、現われた。

ピ、ピ、ピーツ

薫「通達3の結果、裏切り者が現われたってマジ!？」

蘭「通報されないように気をつけないと……コナン君がいればなあ

……」

絶望先生「絶望した！　この状況で出てきた裏切り者に絶望した

……」

ゲーム終了まで残り145分。

藤龍「お、おいおい……マスター、なんでこの状況で裏切り者なん
て募集したの？」

マスター「……違う」

クレイジー「は？」

マスター「私は、何もしていない」

藤龍「……てことは、まさか乗っ取られた!？」

クレイジー「クラッキングか!？」

マスター「もしや……やつめ……」

通達2 来る、やつらが来る！（後書き）

牢獄DEトーク

樹「裏切り者だと！？ この大量のハンターがいる状況で！？」

兼一「ほんとに何がしたい！！」

ルイージ「でもこれでスマブラメンバーがつかまってくれればいいんだけどなあ」

ナツ「不吉なことを言うな！」

コナン「ねえ、映児さん、なんかわからない？」

映児「……すまん」

ワグナー（……もしかしてアレが？ いやまさかね）

通達 2 裏切り

マリオ「この空間……一体どこまで続いてるんだ？」

謎の空間に入ったマリオ。 ちなみにまだ裏切り者のことは知らない。

マリオ「あ、誰かいる」

マリオはその人のもとへ走っていった。

吾郎「お、マリオじゃねえか」

吾郎だ。

マリオ「吾郎！ ってことはもしかして他の消えた人たちも同じように……」

マリオ、吾郎を発見。

そして二人を光が包んだ。

ピ、ピ、ピーッ

ネギ「通達です！」

ピカチュウ「マリオ、茂野吾郎発見」

はじめ「よってマリオの賞金が倍となった。

さすがはミスター

任天堂」

裏切り者「……マリオ、目立ってきたな。 そろそろ動くか……」
動き始めた裏切り者。 そしてその近くには……。

聖夜「用心していこうぜ」

蛮「ああ。どこから裏切り者が狙ってくるかわからんからな」
裏切り者（じゃあ、その用心を一気につぶしてやるよ）

ピロリン

裏切り者「聖夜と蛮。ともに中央広場噴水近くに……あ、今北スマブラエリアに入りました」

ピッ

裏切り者（くくく……。さあ、絶望へのカウントダウンだ）
……大げさだ。

蛮「おい、後ろ」

聖夜「え……。ギョ！　ハンター！？」

蛮「走れ！！」

聖夜「言われなくても走つとる！！」

走り出す二人。　しかしハンターも走っている。

一方その前方では……。

藤丸「くっ、俺としたことが見つかるとは……！！」

ハンターに追いかけられているハッカーがいた。

聖夜の前方を走っていた蛮と、その前方から走ってくる藤丸がすれ違った。

蛮「ちよつと待て、そっちにハンターが！！」

藤丸「お前こそ！！」

聖夜「あ、オワタ」

ハンター二人に挟まれる形になってしまった。

ポンッ　ポンッ　ポンッ

蛮、聖夜、藤丸確保。

残り34名。

リンク「3人も!!」

令子「しかも蛮と聖夜は裏切り者による通報!？」

スネーク「これで裏切り者は20万獲得か……」

ikkii「ヤバイな……迂闊に動けねえ」

裏切り者と9体のハンターの存在が逃走者たちにプレッシャーを与える……。

乱馬「どうする?」

ikkii「裏切り者の正体さえ分かればいいんだがなあ、なんせ3人もいるんだ」

乱馬「特定は厳しいな」

???「オラオラオラオラどけどけどけ!!」

話し合っている2人の背後からもすごい勢いで突っ込んでくるバカがいた。

……バイクに乗ったワリオだった。

ikkii「うお!」

乱馬「危ねえだろ気をつけやがれ!!」

ワリオ「ガハハハハハッ!!」

乱馬の文句を無視し、そのまま走り去って行った。

ikkii「……ところであいつ、なんでここにいるんだ?」

乱馬「は?」

ikkii「あいつ、ここに呼ばれてねえぞ」

謎がさらに増えた。

ピロリン

裏切り者「ソニック、現在北サンデーエリアをものすごいスピードで移動中。おそらく東マガジンエリアで待ち伏せするのがよろしいかと」

ピッ

裏切り者（さあ、狩らせてもらおうかお前の賞金を！）
またしても裏切り者の魔の手が忍び寄る……。

ゲーム終了まで残り126分。

クレイジー「おい、いい加減中止させろ!!」

マスター「それができれば苦労は無い!!」

藤龍「畜生！ 強制終了プログラムまで落とされた!!」

クレイジー「裏切り者は誰だ!？」

藤龍「その情報も入手不能!!」

マスター「どうすれば!!」

藤龍「くそっ、パソコン部部长が聞いて呆れるぜ!!」

クレイジー「いやお前よりできるやつ大勢いるから!!」

通達2 裏切り（後書き）

牢獄DEトーク

ナツ「ウギヤアア、またマガジンキャラ!!」

ワーグナー「しかも聖夜まで落ちた……」

聖夜「裏切り者……正体わかったらムッコロス!!」

ルイージ「何そのネタ発言!!」

藤丸「ノーパソ、使っちゃダメ？」

兼一「絶対ダメですって!!」

通達2 ハンティング

ソニック「ハンターって意外と遅いんだな」
裏切り者による通報を知らずにとてつもないスピードで走り続けているソニック。

そして目の前にはハンター。

ソニック「振り切るZ E」

自信满满のご様子。

しかしハンターは二人いる。

ソニック「これ、使ってやるZ E」

ソニックは王様から貰ったアイテム、虹色の飲み物を半分飲んだ。すると、ソニックの体が虹色に包まれた。

ソニック「Great! スマッシュボール手に入れたときみた
いだZ E」

ソニックは一気に解き放った。

ソニック「決めてやる!!」

スーパーソニックとなり二体のハンターをふつとばし、東マガジンエリアから南スマブラエリアへ移動したところで元に戻った。

この間、30秒。 東マガジンから南スマブラまではソニックでも6分はかかる。

まあ、結論は振り切った。

裏切り者「……遅いな。 それとも失敗か？」

一方その頃……

「????裏切り者がいい具合に消して行ってくれてるな」
「????これでワガハイたちの計画が実行できるのだ!」
「????ガッハッハッハッハッ!」
「????では、行くぞ。邪気覚醒機を起動する!」

ピリリリリッ

絶望先生「え、ミッションですか？」

スネーク「今から20分以内に全員中央広場へ集合せよ。は!」

ネギ「時間に間に合わない場合、強制失格とする。理由もなしになぜ……」

蘭「とにかくいそがなきゃ……」

ミッション3

今から20分以内に全員中央広場へ集合せよ。

時間に間に合わなかった場合、強制失格とする。

急ぎたまえ!

良守「畜生! クロウドのやつを早く見つけねえと!」

集合よりもライバル優先の結界師。

良守「あの野郎、どこ行きやがった!! ていうかいい加減つかまれ!」

いまだにわら人形の効果が切れていることに気づいていないらしい。

ちなみに中央広場へ行けばミツシヨンクリアできるしクラウドを見つけることもできるので一石二鳥だと思うのだが……。

クラウド「ハツクシヨンツ!!」

ピカチュウ「大丈夫?」

クラウド「ん、ああ。誰か噂してるな?」

景太郎を犠牲にして、今度はピカチュウと合流したクラウド。

クラウド「犠牲とか人聞きの悪いことを言うのはどこのどいつだ?」
聞かれてた……。

クラウド「それより、見えてきたぞ」

ピカチュウ「あ、本当だ。噴水が見える!」

二人の視界の先には噴水が見えた。

しかし……。

クラウド「……これは」

ピカチュウ「行くに行けないよ!」

ピリピリピッ

ルカリオ「ん? クロウドからのメールだな」

耕介「なにになに……」

みんなへ

俺とピカチュウは今中央広場が見える場所まで来ている。

だが、困ったことに中央広場にはハンターが二体いる。

俺たち二人では困にすらなれないが、全員で行けば恐らく大丈夫だろう。

……もしも、中央広場にさえ入れればハンターに捕まらないのならば、
だが。

でもたのm

スネーク「ん、ここで途切れてるぞ？」

サトル「ちよつとまでよ、もう一通来てやがる！」

ネギ「中央広場付近でクロウドとピカチュウ確保……う、うそですよね！？」

薫「よつて残り32名となる。ひ、ひどい……」

リンク「おい、行こうぜカービー！ 二人のやりたかったことを！」

カービー「うん！ 僕らで繋ぎとめればいいんだよね？」

二人は中央広場へと移動を始めた。

ルカリオ「行かねばな……ん、邪の波動を感じる」

ルカリオが見つけたのは、木に刺さったわら人形だ。

ルカリオ「ぬん！」

ルカリオはそれを抜いた。すると、わら人形から溜まっていた

邪念が一気に解き放たれてしまった！

ルカリオ「……やってはいけなかったか」

ええ、やっちゃいましたね。

ゲーム終了まで残り116分。 ミッション終了まで残り10分。果たして助かるものは何人なのか、そして邪念がもたらす悲劇とは

!
?

通達2 ハンティング(後書き)

牢獄DEトーク

クラウド「あ、あ、やられちゃった」

ピカチュウ「チュウ……」

ワグナー「いや、お手柄だよ。中央広場の状況を教えてくれ

ただけな」

ルイーザ「やっとスマブラ組みが捕まったあ……」

ピカチュウ「むっ！ ピカ……チュウ……!!!」

ピカチュウの100万ボルト!!

ルイーザ「わぎやぎやぎやぎやぎやぎや……!!!」

プリン「自業自得プリ」

ミッション3、通達2

肉食獣の群れの中の草食獣（前書き）

久しぶりの投稿です！

蒼「さてと……アレは何？」

秋葉「……さあ？」

相方的存在が共に行方不明となった二人は、目の前に謎の空間を見つけた。

秋葉「……入ってみる？」

蒼「……時間は？」

秋葉「残り10分」

蒼「……今はミッションのほうを優先させましょう。中に入ったらいつ出られるかわからないし」

秋葉「……そうね」

二人はその場を離れ、中央広場へ向かった。

しかしその空間が……

龍斗「……早く誰かこい〜！」

玲羅「zzzz……」

大当たりだった。

乱馬「ハンターの間を見て、一気に行くぞ」

ikki「了解」

中央広場の近くまで来た二人。

しかし中央広場には二体のハンター。

今はまだ気づいていないようだ。

ikki「……残り9分か」

乱馬「他の連中は大丈夫か？」

ネギ「このまま……！」
身をかがめながら中央広場に近づく魔法使い。
そして噴水が見えると、すぐそばの電柱に身を潜めた。
ネギ「……ここで捕まったら明日菜さんになんて言われるか」
彼女の為にも捕まるわけにはいかない。
そう思う魔法先生であった。

絶望先生「残り9分……黄キノピオさん！」

黄キノピオ「何や？」

絶望先生「……困をお願いします「遠慮！」ちよ、最後まで聞いてくださいって」

計画を断られてしまった絶望先生。

すると彼は、中央広場のほうを指差した。

絶望先生「あ、あんなところにたこ焼きが……！」

黄キノピオ「え、マジ!？」

黄キノピオは何も考えずに中央広場に走っていった。

絶望先生「では……」

絶望先生はルートを変えてから中央広場に入った。

絶望先生、ミッションクリア。 残り31名。

黄キノピオ「たーこーやーきー!!!!!!」

黄キノピオはそう叫びながら中央広場に入った。

もちろん、ハンターに見つかったが、なんと無事だった。

黄キノピオ、ミッションクリア。 残り30名。

サムス「もうすぐで中央広場よ!!」

ソニア「どうする!?!」

走る二人。　ちなみに残り8分。

サムス「中央広場には噴水があったから……あたしが指示したらしたがつて!」

ソニア「わかりました!!」

そして中央広場面前……。

ハンターは一体がこちらの方を見ている。

もちろん、見つかった。

するとサムスは手に入れたフック付きロープを取り出し、空中で回した。

ヒュンヒュンヒュン……

サムス「あたしにしっかりと捕まって!!」

ソニア「はい!」

ソニアはサムスにしっかりとしがみつき、サムスはロープを噴水に向けて投げた。

ヒューン、カチッ!

フックが噴水に固定されたことを確認すると、サムスは地面を蹴り上げ、遠心力で中央広場に移動した。

サムス、ソニア、ミッションクリア。　残り28名。

ソニア「ちょ、サムスさん前!!」

サムス「へ……キャッ!!」

バsshャー……ン!!

噴水に衝突しそうになったサムスはそれを避けようとしたがバランスを崩してしまい、噴水の水溜りに落ちてしまった。

サムスは一応防水加工のついたゼロスーツだったが、ソニアはシスター服のためびしょぬれになってしまった。

裏切り者「ちつ、邪魔くせえんだよハンター！ ……こうなった
ら」

ピロリンツ

裏切り者「……ハヤテが現在南マガジンエリアにいます
偽の情報を流した……。

ピッ

通報を聞いたハンターは一齐に南マガジンエリアに向かった。
そして中央広場はクリアした者以外誰もいなくなった。

ikkii「よっしゃ！」

乱馬「一体何があったんだ？」

ネギ「よっし、クリア！」

秋葉「これでいいのね？」

蒼「やったあ！」

咲夜「ま、ウチにかかればこんなもんよ」

マリオ「あれ、スマブラ初？」

吾郎「よし、クリア！」

ソニツク「Hey, Guys!!」

リンク「よし！」

カービィ「ポヨッ！」

はじめ「ふう……」

アイク「何とかやったぜ」

四月一日「よし、これで何とか侑子さんにしかられなくて済む……」
マルス「ま、いい方なんじゃない？」

ルカリオ「ぬん」

残り12名。

ikki「……なあ、これっていまさらだが行方不明者も含んでるのか？」

全員「あ……！」

あ……。

ゲーム終了まで残り110分。 ミッション終了まで残り4分。
果たして残りの12名は間に合うのか……！？
そして行方不明の三人は無事救出されるのか……！？

ミッション3、通達2

肉食獣の群れの中の草食獣（後書き）

牢獄DEトーク

兼一「なあ、僕たちで考えてみないか？」

改造「なにをだ？」

兼一「裏切り者の招待」

ワグナー「だな。考えてみるか」

聖夜「だがそんな簡単にわかるのか？ 悪役系がいるわけでもない

し」

コナン「だな」

藤丸「手詰まりってやつか」

裏切り者予想アンケートを行います。

ルールは

- ・一人三票まで（同キャラOK）。
 - ・捕獲者は含めない。
- です。

一応入るのは

蘭、乱馬、ハヤテ、咲夜、ソニア、令子、耕助、良守、薫、清麿、
ネギ、四月一日、マリオ、カービィ、メタナイト、ルカリオ、マル
ス、アイク、リンク、サムス、ソニック、スネーク、黄キノピオ、
蒼、秋葉、ikkii、サトルです。

吾郎、絶望先生、フォックス、龍斗、玲羅は裏切り者募集中に行方
不明者だったため外れます（龍斗さん、桜坂電波塔さん、すみませ
ん）。

では、次回もよろしくお願ひします。

ミッション3、通達2 オリキャラの悲劇

逃走者たちが次々に中央広場へ集まっている中、他の人たちは……

蘭「あそこね！」

耕助「なんだ、案外楽だったな」

中央広場の目の前まで来ていた二人。

そして中央広場に足を踏み入れた。

蘭、耕助、ミッションクリア。 残り10名。

良守「よっしゃついたぜ！」

時を同じくして中央広場にたどり着いた良守。

ミッションクリアだ。

良守、ミッションクリア。 残り9名。

ハヤテ「ここは南マガジンですから、中央広場はもうすぐですね」

薫「ようやく……」

令子「でも残り3分だから急がないと……あ、2分になった」

南マガジンエリアにいる三人。

……南マガジン？

三人「！」

常に窮地にいるためか、すばやくその存在に気づいたらしい。

そう、彼らの近くには裏切り者が呼び出したハンターたちが……。

薫「さて……どうしようかしら」

ハヤテ「……走ります?」

令子「……そうね、いざとなったらアイテム使えばいいし」

令子は小型銃、薫は透明色のメガネを取り出した。

そして三人は中央広場の方角へ走り出した。

三人「うおおおおおおおおお!!!」

ハンターたち「!!!」

それに負けじとハンターたちも走り出した。

ハヤテ「ハンターの数はお8です!」

令子「ちよつとまって9じゃないの!?!」

薫「ほぼ全員が集まってるってことは裏切り者よね? それなら

残り一体は!?!」

しかしサンデー内で一番足の速いハヤテはまだしも、あとの二人は今にも追いつかれそうな勢いだ。

そしてハヤテは、二人の後ろへすばやく周り、ハンターたちの前に仁王立ちした。

薫「ちよつと借金執事!?!」

ハヤテ「お二人は先に行ってください!!!」

令子「でもあんたは!?!」

ハヤテ「大丈夫です! サングラスの大男にフルボッコにされるの、慣れてますから!」

慣れていいのかよ!!

薫「……しょうがないわね、行こう!!」

令子「……ええ」

二人は中央広場に向かって走り出した。

令子、薫、ミッシェンクリア。残り7名。

ハヤテ「あとは……よろしく願いします」
ポンッ

ハヤテ確保。残り31名。

咲夜「なっ……！裏切り者の通達により借金執事が確保やて！？」
ネギ「そ、そんな、あの人サンデーキャラで一番足が速いの……」
令子「……あたしたちを庇ったのよ」

薫「だからあたしたちは、あいつの分まで頑張らなくちゃならない」

裏切り者「棚から牡丹餅とは、まさにこのことだな」

そして、その同時刻に……

メタナイト「まだ追ってくるか！！」
ギャラクティック「……………」

得意の滑空ができないこの空間で、メタナイトはギャラクティックとの逃走劇を繰り広げていた。

ちなみに、ギャラクティックは滑空が可能。

ギャラクティックはハンターではないので気にしないということもできるのだが、敵意むき出しの彼を無視するというのはまさに自殺行為なのだ。

メタナイト「……もうすぐ、中央広場だ！！」

メタナイトはギャラクティックの衝撃波による攻撃をたくみに避け、中央広場にたどり着いた。

メタナイト、ミッシェンクリア。残り5名。

ギヤラクティックもそのあとを追って広場に入ろうとした。が、謎のバリアによって弾かれてしまった。

ギヤラクティック「……………」

ギヤラクティックは仕方なく引き上げた。

そしてまた同時刻……

清磨「ハンターがない。なら今しかない……！」

清磨はスマブラエリア側から広場に入ろうとし、ダッシュした。

しかしそのすぐ側に黒い影……。

半田（！ 我、発見セリ……！）

ハンターの半田だ。

どうやら裏切り通報に気づかなかったらしい。

半田「覚悟……！」

清磨「へっ、ハ、ハンター……！？」

ポンッ

突然のことで立ち止まってしまい、捕まってしまった。

清磨確保。残り30名。

耕助「う……そ、だろ、あいつが捕まるなんてはじめ「どンドン、減ってくな」

サトル「……………」

スネーク「……………どうした？」

現状、最後の2人のサトルとスネーク。　急がねばならぬこの状況で、サトルは立ち止まった。

サトル「……………時空の歪みを、感じる」

スネーク「何!？」

するとサトルはある一点を指差した。

サトル「一番強いのは、ここだ。　歪みの中に生物の気配も感じる……………二つ」

スネーク「行方不明者か!？」

サトル「わからない。　でも、行こう!!!」

こうしてサトルとスネークは時空の裂け目の中へと足を踏み入れた。ちなみにこのとき残り1分半。

龍斗「お、誰か来たぞ!!」

玲羅「本当!?　うお—————い!!」

行方不明者の2人は、こちらに向かってくる二つの人影に向かって大きく手を振った。

スネーク「あの2人は!」

サトル「よっしゃ、ビンゴだぜ!!」

スネークとサトルも走ってそれに応える。

スネーク「2人とも、無事か？」

龍斗「ああ、何とかな」

玲羅「それよりここはどなんですか？」

サトル「ここは時空の歪みの中だ」

龍斗・玲羅「……………あんた誰？」

サトル「まさかの失礼発言!？」

スネーク「……そういや、名前なんだっけ？」
サトル「うおいー!!」

そんなこんなで、4人の体は光に包まれ、その空間から消えた。

ピ、ピ、ピーッ

蒼「スネークと%#」、龍斗と玲羅を発見!？」

秋葉「よって2人の賞金が倍になった。あゝやられちゃった…」

…」

吾郎「文字化けには誰も突っ込まないのか、おい」

そして、謎の空間から脱出した4人は……

サトル「俺の名前があああああ!!」

スネーク「おい、そんなことよりあと1分しかねえぞ!!」

玲羅「はやくいきましよう!!」

龍斗「もう走ってる」

サトル「ちよつとまってなんで誰も俺の文字化けに突っ込まないの!？」

影薄者だからか、もはや携帯にすら存在を認識されない哀れな人物。オリキャラ

サトル「一応俺主人公キャラだぞ!! 向こうじゃ影濃いんだぞ

!!」

そんなこと、知らん。

ともかくにも4人は走り続け、中央広場は目前となった。

残り時間18秒。

そしてさらに厄介なことに中央広場付近には役目を終えたハンターたち9体すべてが群がっている。

龍斗「強行突破だ!!」

スネーク「もはやそれしかあるまい」

玲羅「えーいーいー!!」

サトル「はあ、もう突っ込むのやだ」

文句を言う人が約一名いるが、全員強行突破した。

ハンターたち「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

半田「見つけ!!」

肉食獣の如く4人に襲い掛かるハンターたち。

そんなハンターたちを掻い潜りながらも一番最初にたどり着いたの

は……

スネーク「任務を完了した」

スネークだ。

玲羅「やったあ!!」

龍斗「おっしゃあ!!」

二番目には玲羅、三番目には龍斗。

そして四番目のサトルは……

サトル「いづくぜえ!!」

ハンターたち「「「「「「「「「「「「「「」

半田「あゝあ、これで全員か。 残念」

ハンターたちはものすごく残念そうに散り散りに去っていった。

まるで % の存在に気づいていないかのように……。

\$*くも結局、ミッションクリアした。

サトル「……ねえ、なんで作者が見向きもしてないってだけでこう

もひどい扱われ方されるの??」

スネーク、玲羅、龍斗、? y#、ミッションクリア。

残り1名

そして時間切れ……。

そして時間切れ……。

フォックス「な、なんじゃこりゃ!!」

フォックス「な、なんじゃこりゃ!!」

今も尚謎の空間にいたフォックスは、光に包まれ、消えた。

ゲーム終了まで残り106分(全然進んでねえ!!!)。
次回、彼らが集められた理由が、明らかになる……。

ミッション3、通達2 オリキャラの悲劇（後書き）

牢獄DEトーク

ハヤテ「捕まっちゃいました・・・」

清麿「不覚だった」

ピカチュウ「でもよく頑張ったピカ！」

コナン「だな。 とここでこの牢獄・・・移動してないか？」

園子「言われてみればそんな気が・・・」

蛮「いや、実際移動してるぞ！！」

ワグナー「な、なんで!？」

ナツ「勝手に・・・」

改造「改造ですか!？」

クラウド「違ーよ!!」

藤丸「自動で移動してやがる。 この方角は・・・中央広場!!」

全員「え!!!？」

ちなみに、裏切り者予想アンケートはまだ募集しております。
どしどしお願いします！

休憩タイム(前書き)

お久しぶりです&明けましておめでと〜いございます！

休憩タイム

ミッション3が終了し、確保者を入れた牢獄が移動した後の中央公園……。

今ここにすべての逃走者が集まった。

それと同時にある場所にて設置された邪気覚醒機が完全起動し、サンマガランド中の邪気が一斉に活性化された……。

通達5

これから10分間の休憩とする

マスター「……邪気が！」

藤龍「通達は送れるんだが……だがやはり管理システムも取り戻さない……」 携帯を取り出しどこぞに電話

クレイジー「どこに連絡する気だ？」

藤龍「サンデーメンバーの新入り。それよりもマスターとクレ

イジーはあいつらに休憩を取らせてくれ」

マスター「了解した」

藤龍「あ、あとこれも食べさせてやれ」

クレイジー「これは……シュークリーム？」

マスター「まあ、見た目普通だな。しかしこの二つだけは……」

藤龍「それはあの二人にな、ペナルティとして」

そして人数分のシュークリームを持ったマスターとクレイジーは中央広場に向かった。

リンク「お〜来た来た!」
カービー「やつとご飯だよ〜!」
サムス「それよりも誰かタオルか上着ちようだい!!」
クレイジー「ん? いいが、なんでだ?」
サムス「いや……あたしのミスで、ね」 噴水の側に座っている人を指差し
ソニア「ガクブルガクブル……」
ソニアは現在濡れたシスター服を脱ぎ、黒のキャミソール。 し
かし今は冬の夜だ。
クレイジーの上着を受け取ったサムスは、それをソニアに着せた。
ソニア「ありが、とう」
サムス「別にいいの。 友達なんだから」
ソニア「友達……」
サムス「違う?」
ソニア「いえ、ありがとうございます!」
固い友情で結ばれた二人であった。

クレイジー「では、お前ら! さつさとこれを食べえ!!」
全員「おーーーーー!!!」
マスター「あ、ちょっと待て。 ルイージとスネークはこれだ」
マスターは二人にやけに赤い生地の中にやけに緑色のクリームが入ったシュークリームを渡した。
ルイージ「……え?」
スネーク「これは、シュークリームなのか?」
ルイージ「嫌だなあ、食いたくない」
マスター「サフィーさんからの頂き物なんだから、つべこべ言わずに食べ」
ルイージ「へ〜い」

「???? あいつはバオウだけが認められたんだ……!」
「???? ケハハハハハ!!! ポップスターは僕のものだ!!!」
「???? マルスよ……覚悟するがいい」
その他多数もろもろと現われた……。

そして合計3ヶ所にハンターボックスが設置された。

藤龍「あ、ようやく出たか、俺だ」

「????」いきなりなんだ?」

藤龍「……お前の腕を見込んで、頼みがある」

「????」はあ、なんで俺?」

藤龍「だつてお前……高校のときに書いた論文が『ネイチャー』と

『サイエンス』で採用されたじゃんかよ」

「????」あのなあ、俺はYDなんだっつーの」

藤龍「うるさい。新入りのお前に拒否権はない」

ゲーム終了まで残り106分。

次回、怒涛の後半戦が開始される……。

休憩タイム（後書き）

牢獄DEトーク

コナン「復活ゲームはいつになるのだろうか・・・」

ナツ「そんなことより・・・大丈夫か、緑？」

緑「・・・」

ワグナー「死んでるな」

改造「ありがとうルイージ。」

キミの事は忘れない」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0882s/>

サンマガブラザーズ、逃走中！！

2012年1月2日02時48分発行